

平成 29 年度看護学科第 2 学年科目一覧

【前 期】

- 教育原理
- 統計学
- 英語Ⅱ(会話)
- 栄養代謝学
- 診断治療学Ⅰ(内科・外科)
- 診断治療学Ⅱ
(小児科・産婦人科)
- 臨床心理学
- 社会福祉
- 看護対象論Ⅰ(ライフサイクル)
- フィジカルアセスメント
- ヘルスプロモーション
- 看護サービス提供論
- 看護システム実習

【後 期】

- 健康と身体活動
- 診断治療学Ⅲ(精神科)
- 感染免疫学
- 臨床薬理学
- 保健統計学
- 医療安全管理論
- チーム医療論
- 保健医療福祉ネットワーク論
- 看護対象論Ⅱ(疾病の回復過程)
- 看護援助論Ⅱ(看護過程の展開)
- 看護援助論Ⅲ(EBN)
- 健康教育論
- 家族看護論
- 看護基礎実習
- 地域看護学概論
- 学校保健論
- 産業保健論

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
教育原理	一般教育科目	2単位 (15時間)	選択	2年前期	講義
	人を知る				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[担当教員] 鯨井 俊彦		①講義終了後の昼休みに講師室にて ②上記①以外は、学務課へ質問いただければ回答します			
授業のねらい	①教育とは何か？②教育の歴史、③教育の思想、④看護教育の視点から、看護領域における「人間」への理解；専門職としての看護職の職業的意義はどこにあるのか、自分はどうか成長すべきか、についてその教育方法論を取り上げる。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	①人間(ヒト)が人間(人)に成るとはどういうことか、自己の存在をよりよい存在(well-being)に創り上げていく過程を理解できる。②教育の歴史を特に日本に限定、江戸期の教育、その後の近代国家成立後に進められた特徴などを理解することができる。③4人の思想家・教育者たちが主張する教育的意義を理解できる。④看護職という仕事のもつ意味についての教育方法論を理解できる。				
教科書	テキストは特に指定しません。資料は毎時間こちらで用意します。				
参考図書	①ルソー「エミール」(子どもを育むということ)西研著 NHK出版 ②『社会力を育てる—新しい「学び」の構想』門脇厚司著 岩波新書				
評価方法	期末レポート提出：70%、各回講義のミニレポート提出：30% (理解度・参加度評価のため、講義最後の10分程度で感想あるいは要約を作成し提出)				
課題に対する フィードバック	レポートに対する評点に加えて、総評コメントを添付し、学生の成長を促す。				
事前・事後学習	事前：「教育問題」に関心をもって受講すること。 事後：教育実践の場で生かしていくことができるようにすること。				

科目コード【1203】

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	教育とは何か①	子どもの教育：学校教育（子ども・教師・学校の三要素）／子どもとはどういう存在か？	鯨井 俊彦
2	教育とは何か②	大人の教育：生涯学習（主に自己が自己の教師になるという自己教育）	鯨井 俊彦
3	教育とは何か③	人間（ヒト）が人間（人）に成る（werden）とは？	鯨井 俊彦
4	教育とは何か④	看護領域における「人間」の理解について	鯨井 俊彦
5	教育の歴史①	江戸時代の庶民／武家の教育の特徴（寺子屋／「武士道」など）	鯨井 俊彦
6	教育の歴史②	明治・大正・昭和前期の教育の特徴	鯨井 俊彦
7	教育の歴史③	第二次世界大戦後の教育の特徴（教育基本法／戦後のデューイ新教育思想の導入など）	鯨井 俊彦
8	教育の歴史④	第二次世界大戦後の教育の特徴（戦後の教育改革 70 年を振り返る）	鯨井 俊彦
9	教育の思想①	フランスの思想家ルソー（1712－1778）の「自然の教育」とは？	鯨井 俊彦
10	教育の思想②	スイスの教育家ペスタロッチー（1746－1827）の「3Hの教育」とは？	鯨井 俊彦
11	教育の思想③	ドイツの哲学者 R. シュタイナー（1861－1925）の「自由への教育」とは？	鯨井 俊彦
12	教育の思想④	無着成恭（1927〔昭和2〕－ ）の『山びこ学校』の教育実践の教育的意味や戦後の新教育に与えた影響などを取り上げる。	鯨井 俊彦
13	看護教育①	看護職という仕事（労働）のもつ意味・意義（専門職としての教師と看護師との比較などを取り上げる。）	鯨井 俊彦
14	看護教育②	専門職としての看護師に求められる資質・能力をどう育てるか？	鯨井 俊彦
15	まとめ	ここで学んだことを振り返って、これからの職業人生にそれをどのように役立てるべきか、各自の人間観・教育観・職業観などを構築する学びの設計案をつくる。	鯨井 俊彦
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
統計学	一般教育科目	2単位 (15時間)	必修	2年前期	講義
	問題解決				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 高柳 良太 [担当教員] 高柳 良太		授業時にメールアドレスなど問い合わせ先を提示			
授業のねらい	看護・保健領域において必要と考えられるデータの考え方、基本的な統計値や統計手法、考え方などについて学ぶ。講義だけでなく時間内に簡単なデータ集計、計算などの作業も行い、考え方だけでなくデータの扱い方についても理解を深めてもらう。講義と作業を通じて、データを解析・整理・要約するための記述統計学、および解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学の基本的な内容も理解し技術を習得する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、ケアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な統計値の意味を理解し、計算ができる ・母集団、標本および標本抽出について意味や違いを理解する ・統計的仮説検定の意味を理解し、結果の読み取りができるようになる ・データの種類と目的から、適切な統計手法を選択できるようになる 				
教科書	系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院 授業時配付資料				
参考図書	マンガでわかる統計学 高橋信 著 オーム社 基本からわかる看護統計学入門 大木秀一 著 医歯薬出版				
評価方法	定期試験 50% 授業内小テスト 50% (小テストは状況に応じて数回実施予定)				
課題に対する フィードバック	原則として小テストは翌週に返却と解説を行う				

科目コード【1402】

事前・事後学習	<p>事前学習：初回を除き、前回の内容を復習してから授業に臨むこと</p> <p>事後学習：用語や計算などは必ず当日中に理解すること。特に解析などは前時間の内容が前提となって進むので、不明な用語や内容は次の授業前に解消すること。</p>
----------------	--

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	統計学の基本	基本的な演算の復習と確認	高柳 良太
2	データ処理の基本	統計で扱うデータの種類について	高柳 良太
3	基本統計量の計算 1	質的なデータの基本統計について	高柳 良太
4	基本統計量の計算 2	量的なデータの基本統計量について	高柳 良太
5	グラフ表現	統計学で使用するグラフについて	高柳 良太
6	クロス集計表	クロス集計表の考え方について	高柳 良太
7	クロス集計表と χ^2 乗検定	検定の考え方と χ^2 乗検定について	高柳 良太
8	対応のある χ^2 乗検定	対応のある χ^2 乗検定	高柳 良太
9	母集団と標本抽出	標本抽出方法について	高柳 良太
10	平均値の差の検定	t 検定の適用範囲と実際	高柳 良太
11	対応のある t 検定	対応のある t 検定、	高柳 良太
12	相関係数	相関係数の考え方について	高柳 良太
13	相関係数の検定と順位相関	相関係数の検定と順位相関について	高柳 良太
14	回帰分析	相関係数と回帰分析の関連について	高柳 良太
15	復習	データの種類と適切な分析方法の組み合わせ	高柳 良太
—	定期試験		

科目コード【1502】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
英語Ⅱ(会話)	一般教育科目	1単位 (30時間)	選択	2年次 前期	演習
	グローバルコミュニケーション				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]宮本高晴 [担当教員]ジェイムズ・ヘンダスン		昼休み・教員控え室			
授業概要	日常生活、および医療現場に必要なコミュニケーション能力の基礎力をつけることを目標とします。看護師は患者さんやそのご家族だけでなく、他のメディカル・ワーカーたちとも、さまざまなかたちで、心のこもった、また精確な意思疎通を図ることをせまられます。時に応じてそれを英語で行なう必要も出てきます。そういう将来像を思い描きながら、積極的な姿勢で英語の各種技能の習得に努めてもらいます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場における初歩的オーラル・コミュニケーションに習熟する。 2. 他の人たちと英語でコミュニケーションをとる積極的態度を身につける。 3. 文法の理解に基づき、英文の内容を正しく聞き、正しく話し、正しく読み書きすることができる。 				
教科書	Vital Signs: Vivian Morooka.Terri Sugiura; NAN' UN-DO				
参考図書					
評価方法	Two Tests 50% Class participation 30% Homework 20%				
事前・事後学習	<p>Prior to class: students should check the meaning of unfamiliar vocabulary in the next unit.</p> <p>After class: students should do the assigned homework and review the completed unit.</p>				

科目コード【1502】

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	Introductions/Orientation	Self-introductions, introducing others, starting and keeping conversations going.	Jim Henderson
2	Greeting/Parting - News	How to greet and part from new people and friends. Talking about personal news.	Jim Henderson
3	Unit 1: Hospital Departments	Exchanging information and appropriate question forms.	Jim Henderson
4	Unit 1: Hospital Departments	Medical problems and hospital departments.	Jim Henderson
5	Unit 3: Parts of the Body	Identifying human body parts.	Jim Henderson
6	Unit 4: Illnesses	Discussing patient's symptoms.	Jim Henderson
7	Unit 4: Illnesses Review	Discussing patient's symptoms. Review quiz.	Jim Henderson
8	Mid Term Test		Jim Henderson
9	Unit 5: Daily Routine	Explaining daily routines to patients.	Jim Henderson
10	Unit 5: Daily Routine	Asking and answering questions about hospital rules and schedules.	Jim Henderson
11	Unit 6: Hospital Objects	Identifying hospital objects. Using countable/uncountable nouns.	Jim Henderson
12	Unit 7: Locations of Hospital Objects	Using prepositions of place to explain the locations of hospital objects.	Jim Henderson
13	Unit 8: Hospital Directions and Instructions	Asking for and giving directions and instructions in hospitals.	Jim Henderson
14	Hospital Directions and Instructions	More Hospital directions. Review of Units 5-8	Jim Henderson
15	Final test		Jim Henderson
—	定期試験		

科目コード【1502】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
英語 II (会話)	一般教育科目	1 単位 (30 時間)	選択	2 年前期	演習
	グローバル コミュニケーション				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 宮本高晴 [担当教員] 横田まり子		昼休み・教員控え室			
授業のねらい	日常生活、および医療現場に必要なコミュニケーション能力の基礎力をつけることを目標とします。看護師は患者さんやそのご家族だけでなく、他のメディカル・ワーカーたちとも、さまざまなかたちで、心のこもった、また精確な意思疎通を図ることをせまられます。時に応じてそれを英語で行なう必要も出てきます。そういう将来像を思い描きながら、積極的な姿勢で英語の各種技能の習得に努めてもらいます。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 医療現場における初歩的オーラル・コミュニケーションに習熟する。 2. 他の人たちと英語でコミュニケーションをとる積極的な態度を身につける。 3. 文法の理解に基づき、英文の内容を正しく聞き、正しく話し、正しく読み書きすることができる。				
教科書	Vital Signs, 著者 Vivian Morooka, Terri Sugiura, 発行年 2013 出版社 南雲堂				
参考図書	授業時に随時指示				
評価方法	授業への参加・貢献度(50%)、各種テスト・会話パフォーマンス(50%)				
課題に対する フィードバック	授業の性質上、会話パフォーマンス等の課題については毎回の授業時にその場で、テストや課題については次回の授業時も含め必要に応じ、学生各自にフィードバックを行う				

科目コード【1502】

事前・事後学習	毎回の授業の予習・復習、課題をこなすことに加え、日常の生活の中でも自ら英語に触れる習慣をつけていく
----------------	---

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	Orientation	Orientation and classroom English	横田まり子
2	Unit 1	Hospital Departments	横田まり子
3	Unit 2	Application Forms	横田まり子
4	Unit 3	Parts of the Body	横田まり子
5	Unit 4	Illnesses	横田まり子
6	Review	Review of Unit 1-4 Extra activity#1	横田まり子
7	Unit 5	Daily Routine	横田まり子
8	Unit 6	Hospital Objects	横田まり子
9	Unit 7	Locations of Hospital Objects	横田まり子
10	Unit 8	Hospital Directions and Instructions	横田まり子
11	Review	Review of Unit 5-8 Extra activity#2	横田まり子
12	Unit 10	Chatting with a Patient	横田まり子
13	Unit 11	Taking a Medical History	横田まり子
14	Unit 12	Hospital Procedures	横田まり子
15	Review	Review of Unit 10-12 Extra Activity#3	横田まり子
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
栄養代謝学	専門基礎科目	2単位 (15時間)	必修	2年前期	講義
	病気と治療				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
【生化学】宮澤 啓介、阿部 晃久、高野 直治、 森谷 昇太 【栄養学】藤本 信子		【生化学】随時、生化学教室 【栄養学】授業終了後、非常勤講師控室			
授業のねらい	<p>【生化学】生化学は化学の立場から生命現象を研究する学問である。生命現象とは、その基本単位である細胞が外界との接触で様々な 栄養 を取り入れ、同化または異化作用を通して物質交代を行う現象である。この物質交代の過程を 代謝 (metabolism) という。栄養代謝学では、前・五回の授業において、生化学の立場から栄養素の化学と代謝を学び、後・10回の授業において、生活習慣病と栄養摂取の関連および疾患別の食事療法の実際などを学習する。</p> <p>【栄養学】看護の基礎となる栄養・代謝の基礎知識及び臨床現場や健康管理で必要となる栄養治療の基礎を学ぶこと</p>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (口にチェックする)	<p>☑①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 →生物学的視点での栄養代謝についての基本的な概念を伝える</p> <p>☑②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 →治療方法としての食事を理解することで食と人についての本質的な理解を促す</p> <p>☑③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 →地域包括システムを念頭において、栄養と健康の直接的な関わりを学ぶ</p> <p>☑④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 →臨床栄養管理を通じて他職種との連携について理解を深める</p> <p>☑⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 →チーム医療での実際の事例を具体的に検討する</p> <p>☑⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。 →統計情報などで世界での現状を説明する</p>				
到達目標	<p>【生化学】栄養素を核酸、ビタミン、アミノ酸・タンパク質、糖質、脂質に分け、各々の基本的な化学構造と代謝を説明できる。各栄養素の消化器官を介した消化・吸収過程を説明できる。</p> <p>【栄養学】</p> <p>1) 栄養の意義を理解し、栄養・食事療法を介した疾患の予防と治療において、看護師としての基本的な責務を理解する</p>				

	<p>2) 栄養ケアマネジメントの意義及びそのプロセスについて概説できる</p> <p>3) ライフステージに応じた栄養と健康の基礎知識を理解する</p> <p>4) 各疾病の栄養代謝を知ることによって、栄養と疾病の関連性を理解し、栄養状態を適正化する方法を習得する</p> <p>5) 医療と保健の実際を理解し、栄養状態を適正化する方法を習得する</p>
教科書	<p>【生化学】系統看護学講座・生化学・人体の構造と機能③／医学書院</p> <p>【栄養学】系統看護学講座・③・栄養学／医学書院</p>
参考図書	<p>【生化学】授業中に提示する。</p> <p>【栄養学】系統看護学講座・別巻・栄養食事療法／医学書院</p> <p>デジタルナーシンググラフィカ「臨床栄養学(6巻)」</p> <p>デジタルナーシンググラフィカ「栄養代謝機能障害(8巻)」</p>
評価方法	<p>【生化学】定期試験 100%</p> <p>【栄養学】定期試験 80% 小テストへの取り組み 20%</p>
課題に対するフィードバック	<p>小テストを実施の際、終了後に質問を受け付けます。</p>
事前・事後学習	<p>【生化学】<u>授業は教科書を用いて進めるので、必ず持参すること。</u>授業前に予定される教科書の箇所を一読してくることが望ましい。受けた授業の記憶が新しい内に文章化しておくことを薦める。</p> <p>【栄養学】事前学習：教科書の該当箇所は必ず30分程度は読んで受講すること</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	栄養素(ビタミンを含む)の種類と働き	<p>概論、核酸、遺伝情報、ホルモン</p> <p>核酸・DNA・RNAの構造、核酸代謝、遺伝情報、ホルモンと生理活性物質</p>	宮澤 啓介
2	栄養素の化学と代謝(1) アミノ酸、たんぱく質	<p>アミノ酸・タンパク質の構造、タンパク質代謝、アミノ酸代謝</p>	森谷 昇太
3	栄養素の化学と代謝(2) 糖(エネルギー代謝を含む)	<p>糖質の種類と構造、グルコースの分解、糖新生、ペントースリン酸回路、グリコーゲン代謝</p>	高野 直治
4	栄養素の化学と代謝(3) 脂質	<p>脂質の分類、構造、そして性質を理解する。脂質の代謝によるエネルギーの産生の仕組みを理解する。</p>	阿部 晃久

科目コード【2103】

5	栄養素の消化と吸収	タンパク質、糖質、脂質の消化及び吸収過程を理解する。	阿部 晃久
6	栄養と看護	1) 栄養関連指針 日本と世界 2) 食事における看護師の役割 3) 日本の栄養摂取の現状 4) NSTにおける栄養ケアマネジメント	藤本 信子
7	栄養状態の評価・判定	1) エネルギー代謝 2) 食品成分表 3) 日本人の食事摂取基準 4) 栄養アセスメント法	藤本 信子
8	ライフステージと栄養①	1) 乳幼児期・幼児期・学童期 2) 春思期・青年期 3) 妊娠期・授乳期	藤本 信子
9	病院給食の意義と特徴と 栄養補給法	1) 成人期 2) 高齢期	藤本 信子
10	栄養と疾患①	1) 低栄養・摂食障害	藤本 信子
11	栄養と疾患②	1) 糖尿病・代謝性疾患	藤本 信子
12	疾患と栄養②	1) 循環器疾患 2) 腎疾患 3) 肝疾患	藤本 信子
13	疾患と栄養③	1) 血液疾患 2) 術前術後・救命救急 3) 治療を要する小児疾患	藤本 信子
14	保健指導の目的と実際	1) メタボリックシンドローム 2) 保健指導の階層化 3) 食事と運動による相乗効果	藤本 信子
15	栄養管理の実際	1) 栄養管理科の業務 2) 各部門との連携 3) 総括	藤本 信子
—	定期試験		

科目コード【2107】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
診断治療学Ⅰ(内科・外科)	専門基礎科目	3単位 (15時間)	必修	2年次 前期	講義
	病気と治療				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]山科章 [科目担当者]関根秀介、勝又健次、西部俊哉、瀬戸口靖弘、大平達夫、沢田哲治、小坂泰一、坪井良治、勝又健次、河合隆、菅野義彦、並木一典、伊藤良和、石川孝、岩本俊彦、後藤浩、大塚康司、竹内啓人		授業終了後			
授業概要	<p>健康障害を持つ対象を観察し、判断するために必要な医学的知識について学ぶ。器官系統別に機能に悪影響を及ぼす要因を理解し、障害がおこるメカニズムについて学ぶ。さらに器官系統別の代表的な疾患を中心として、診断・治療に関する検査、診断、治療について学習する。</p> <p>内科学では、主として成人領域の主な循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液・造血器疾患、脳・神経疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患に大別し、それぞれを代表する疾患の病態、症状、診断、治療、予後について学習する。</p> <p>外科学では、総論として手術による身体侵襲、麻酔法、創傷管理法を学び、各論で、呼吸器・胸部疾患、循環器疾患、消化器、腹部疾患、腎・泌尿器疾患、運動器疾患、耳鼻・咽喉疾患、眼疾患に大別し、それぞれ代表する疾病の術前術後管理と合併症について学習する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な疾患の特徴と診断および治療方法を理解できる。 2. 外科侵襲の定義とその生体反応、術前術後管理と合併症について理解できる。 				
教科書	<p>医学書院 系統看護学講座 別巻 外科学総論 別巻 外科学各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 2 呼吸器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 12 皮膚 ナーシンググラフィカ 2014 (メディカ出版)</p> <p>健康の回復と看護① 呼吸機能障害／循環機能障害 健康の回復と看護② 栄養代謝機能障害 健康の回復と看護③ 造血機能障害／免疫機能障害 健康の回復と看護④ 脳・神経機能障害／感覚機能障害 健康の回復と看護⑤ 運動機能障害 健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害／性・生殖機能障害 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療</p>				
参考図書	なし				
評価方法	定期試験 100%				
事前・事後学習	各担当教員による				

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	内科学 循環器疾患(1)	心臓の構造と機能を理解したうえで、心臓疾患の病態、診断、治療法について学習する。	山科 章
2	内科学 循環器疾患(2)	循環の原則、血管の各部位の構造と機能、血圧を規定する要素について解説したうえで、動脈硬化、高血圧症病態、診断および治療について学習する	山科 章
3	外科学 麻酔学	調整中	関根 秀介
4	外科学 外科学総論	外科患者の病態の基礎、外科患者へのアセスメント、手術侵襲、炎症、感染、腫瘍、外傷について学習する	勝又 健次
5	外科学 循環器疾患	冠動脈疾患、弁膜症、大動脈・末梢血管疾患、先天性心疾患などの外科的治療に関する治療内容、術前術後管理などの概略について学習する。	西部 俊哉
6	内科学 呼吸器疾患	呼吸とは何かをとらえ、その障害の種類によって呼吸機能障害も異なることを理解する。疾患としては、閉塞性換気障害と拘束性換気障害を中心に講義をおこなう。	瀬戸口 靖弘
7	外科学 呼吸器・胸部疾患	呼吸器の解剖、生理学的基本事項 肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜疾患の診断と治療	大平 達夫
8	内科学 免疫、アレルギー性疾患	膠原病およびその類縁疾患とアレルギー性疾患の概念、代表的疾患（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、アナフィラキシーなど）の診断と治療について概説する	沢田 哲治
9	外科学 運動器疾患	骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折、脱臼・捻挫、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱	小坂 泰一
10	内科学 皮膚科疾患	①接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹 ②薬疹、乾癬、水疱症 ③褥瘡、熱傷 ④ヘルペス（帯状疱疹）、白癬、疥癬	坪井 良治
11	上部消化管	食道癌、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌	河合 隆
12	下部消化管	虫垂炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸癌の疫学、診断、治療について学習する。	勝又 健次
13	肝臓疾患	ウイルス肝炎(急性肝炎・慢性肝炎)の病態、診断、治療について概説する。劇症肝炎の病態について解説する。肝硬変の病態、診断、治療について概説する。肝癌の診断、治療について解説する。	竹内 啓人

授業回数	項目	講義内容	担当者
14	胆道・膵臓疾患	胆道、膵臓の構造と機能、胆石症、総胆管結石、急性・慢性膵炎、膵臓癌	永川 裕一
15	内科学 内分泌・代謝疾患(2)	下垂体疾患（先端巨大症、高プロラクチン血症、汎下垂体機能低下症（シーハン症候群）、尿崩症）、甲状腺疾患（甲状腺中毒症、甲状腺機能低下症）、副甲状腺機能亢進症（高カルシウム血症）、副腎疾患（クッシング症候群、副腎不全（アジソン病）、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫）、多発性内分泌腫瘍	金澤 昭
16	内科学 内分泌・代謝疾患(1)	糖尿病、低血糖症(含インスリノーマ)、脂質異常症、痛風・高尿酸血症	三輪 隆
17	内科学 腎・泌尿器疾患	腎臓内科領域の疾患の病態・診断・治療の概要を学習する	菅野 義彦
18	外科学 腎・泌尿器疾患	泌尿器悪性疾患(腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌、精巣癌等)。良性疾患(尿路結石症、前立腺肥大症、水腎症、副腎腫瘍、尿路感染症等)等	並木 一典
19	内科学 血液・造血器疾患	骨髄不全の診断と治療 造血器腫瘍の診断と治療、支持療法 造血幹細胞移植 出血性疾患の診断と治療	伊藤 良和
20	外科学 乳腺疾患	調整中	石川 孝
21	内科学 脳・神経疾患(1)	脳・神経は多彩な機能を営み、その障害はさまざまな症状を生む。このため、この機能局在を系統的に概説し、これらの障害や症状に関する重要な医学用語をキーワードとして取り上げ、疾患の理解に役立つよう解説する。	岩本 俊彦
22	内科学 脳・神経疾患(2)	続いて脳・神経疾患の各論として、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、感染症、脱髄性疾患、脊髄疾患、末梢神経・筋疾患について概説する。	岩本 俊彦
23	外科学 眼疾患	視覚に関わる眼球、眼付属器、視中枢について解説する。視覚障害の原因となる①白内障、②緑内障、③網膜剥離、④糖尿病網膜症、⑤加齢黄斑変性、⑥その他の眼疾患について、スライドで実例を提示しながら解説する。治療の実際についても供覧し、併せて周術期における看護のポイントを概説する。	後藤 浩

授業回数	項目	講義内容	担当者
24	外科学 耳鼻・咽喉疾患	耳鼻咽喉科領域の代表的な疾患である難聴、中耳炎、めまい、副鼻腔炎、音声障害、頭頸部腫瘍、感染症の病態、診断、治療、予後について学ぶ。	大塚 康司
-	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
診断治療学Ⅱ (小児科・産婦人科)	専門基礎科目	2単位 (15時間)	必修	2年前期	講義
	病気と治療				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 熊田 篤、野平知良 [担当教員] 柏木保代、山中岳、西亦繁雄、春原大介、三浦太郎、奈良昇乃助、高橋英城		授業終了後			
授業のねらい	<p>新生児および小児に生じる健康障害について、発生の過程、回復促進の方法について学習する。とくに新生児および小児特有の身体的特徴、検査データについて理解する。そのうえでいくつかの代表的な疾患について、検査の目的・方法、必要な検査データとその意味について理解したうえで、診断、治療について学習する。(全8回)</p> <p>さらに、女性の特有な疾患と、妊娠・分娩・産褥期における身体的特徴および生理的变化について学習する。そのうえでいくつかの代表的な疾患について、要因、検査、診断、治療について学ぶ。また、妊娠の成り立ちから産褥までの生理的变化についての知識を理解すると共に支援方法について学ぶ。(全7回)</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<p><input checked="" type="checkbox"/>①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p><input type="checkbox"/>⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
到達目標	<p>1. こどもの成長・発達を理解するとともに、こども特有の疾病に関する知識を習得する。</p> <p>2. 女性の妊娠から出産に至る過程と、女性特有の疾病に関する知識を習得する。</p>				
教科書	<p>系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 医学書院</p>				
参考図書	<p>系統看護学講座 解剖生理学 医学書院</p> <p>デジタルナーシング・グラフィカ 母性看護学①②</p>				

科目コード【2108】

評価方法	定期試験
課題に対する フィードバック	試験終了後、e 自主自学により問題別にフィードバックをいたします。
事前・事後学習	事前学習：妊娠・分娩に関しては「母性看護学2 母性看護学各論」、婦人科に関しては「成人看護学9 女性生殖器」、小児科に関しては「小児看護学2 小児臨床看護各論」の該当箇所を予め読んでくる。 事後学習：講義資料は速やかに e-learning にアップしておくので、当日の講義内容を復習すること。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	小児の主な疾患と診断・治療	先天異常・新生児疾患・染色体異常・低出生体重児の疾患	春原 大介
2	小児の主な疾患と診断・治療	ウイルス 細菌感染症・真菌感染症	高橋 英城
3	小児の主な疾患と診断・治療	小児に多い呼吸器・免疫・アレルギー疾患	三浦 太郎
4	小児の主な疾患と診断・治療	循環器疾患・先天性心疾患・川崎病	奈良 昇乃助
5	小児の主な疾患と診断・治療	小児の消化器・腎・泌尿器疾患	柏木 保代
6	小児の主な疾患と診断・治療	代謝疾患・内分泌疾患・糖尿病	熊田 篤
7	小児の主な疾患と診断・治療	血液・悪性新生物	西亦 繁雄
8	小児の主な疾患と診断・治療	神経・運動・痙攣・筋疾患	山中 岳
9	女性生殖器の解剖と生理 妊娠の成立	女性生殖器の解剖、性周期とホルモン 妊娠の成立（排卵・受精・着床）、分娩予定日	野平知良
10	正常妊娠経過と母子保健	胎児発育・評価と胎児付属物 妊娠中の母体変化、妊婦健診、母子保健	野平知良
11	分娩の生理 産褥	分娩の3要素、正常分娩の経過 正常分娩機転、正常産褥	野平知良
12	ハイリスク妊娠(I)	異所性妊娠、多胎、流・早産、妊娠高血圧症候群とその関連疾患、産科DIC	野平知良
13	ハイリスク妊娠(II) 産褥の異常 STD（性感染症）	妊娠糖尿病、母子感染、 産後出血、産後の合併症（血栓症、産褥熱） クラミジア、梅毒、性器ヘルペス、感染性膣炎	野平知良
14	生殖・内分泌 DSD（性分化異常症）	月経異常、不妊症、加齢による変化 アンドロゲン不応症、性染色体異常	野平知良

科目コード【2108】

15	子宮の腫瘍・類腫瘍性病変、卵巣の腫瘍	子宮筋腫、子宮内膜症、子宮頸癌 子宮体癌、良性卵巣腫瘍、卵巣癌	野平知良
—	定期試験		

科目コード【2104】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
臨床心理学	専門基礎科目	1単位 (15時間)	必修	2年前期	講義
	病気と治療				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] [担当教員] 中村有希		火曜日 9時30分～10時30分 12時10分～13時10分 場所：非常勤講師控え室			
授業のねらい	看護師は身体疾患や精神疾患によるストレスや欲求不満を抱える患者に対して、患者の心理的能力を協応させ治療を促進するよう支援する必要がある。臨床心理学領域で心の治療の中核に位置している「心理療法(psychotherapy)」は患者の心理的能力の覚醒と変化に向けた理論及び方法論を有している。本講義では、精神分析理論を基盤とした人間の心の働きとその発達を学び、看護対象者の心の動きを捉え、患者の能力および病理の査定に基づいた看護実践ができるための基礎知識を身に付けることが狙いである。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 精神分析理論に基づいた心の働きの基礎知識を得る。 2. 人間存在の基本原理、人の変化の原理を理解することができる。 3. 心の発達と発達段階に応じた看護対応の留意点ができる。 4. 看護師として対象者を支援する際の臨床的態度を学ぶことができる。				
教科書	① 小谷英文(1993). ガイダンスとカウンセリング. 北樹出版. ② 小谷英文(編著)(2010). 現代心理療法入門. PAS 心理教育研究所出版部.				
参考図書	宇佐美しおり・野末聖香(編)(2009). 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会.				
評価方法	定期試験 100パーセント				
課題に対する フィードバック	試験終了後、必要な学生には問題別にフィードバックをします。				

科目コード【2104】

事前・事後学習	<p>事前学習：講義開始までにテキストの必要箇所は読んでくること。</p> <p>事後学習：毎回授業で理解したこと、不明な点を整理し、A4用紙にまとめておく。不明な点はそのままにせず必ず次の授業で確かめること。</p>
----------------	---

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	臨床心理学序説	臨床心理学の定義（教科書②p. 1） 本講義の目的および到達目標の確認	中村 有希
2	心の働き：人格機能と人格構造	フロイトの局所論と構造論（教科書②p. 7-9） 自我の適応機能と防衛機能（教科書②p. 3）	中村 有希
3	心の発達①：乳幼児期から児童期	身体・情緒的発達、対人関係発達、発達課題、 臨床的対応の留意点（教科書①p. 104-120）	中村 有希
4	心の発達②：青年期から老年期	身体・情緒的発達、対人関係発達、発達課題、 臨床的対応の留意点（教科書①p. 104-120）	中村 有希
5	性格：人格理論	パーソナリティ・スタイルの基本図式 （教科書①p. 121-144）	中村 有希
6	病理：病態水準	精神病・人格障害・神経症（参考①p. 81-82） 発達段階と精神病理（配布資料参照）	中村 有希
7	看護介入の実際	人が変わる理由（教科書 p. 11） 個人と集団（参考①p. 91-94）	中村 有希
8	まとめ	看護師としてのアイデンティティ 看護師としての臨床的態度	中村 有希
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
社会福祉	一般教育科目	2単位 (15時間)	選択	2年前期	講義
	問題解決				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]森山幹夫 [担当教員] 森山幹夫		原則 火曜・水曜日 9:00～10:00 場所 森山研究室503 moriyamamikio@yahoo.co.jp			
授業のねらい	社会福祉とは、高齢者、障害者、児童に関するサービスと言われる。本講では福祉とは何か、看護とどのような関係にあるのかに始まり、社会保険制度を除く狭義の福祉を対象に学修を進める。生活、社会、制度、科学・技術が変化する中であって、社会福祉がなぜ存在するのか、福祉の意義は何かを考え、看護として人々を最後まで支える福祉とどのように向き合うかを考察する。そして社会サービスとしての保健医療福祉ネットワークに結び付け、看護を担っていく基本的な視点を身に着ける。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 生活を支えるという観点からの社会福祉を理解する。 2. 保健医療福祉にたずさわる者は住民にどのような支援ができるのか理解する。 3. 住民への支援の組み立て方とその活用の仕方を修得する。 4. 支援を必要とする者に対して、社会は何をなすのか、社会はどのように変わるべきか、将来ビジョンを描く力を修得する。				
教科書	1. iPadに収録されているナーシンググラフィカの該当箇所 2. 適宜資料を配布				
参考図書	1. 系統看護学講座/看護関係法令 2017年 医学書院 2. 初めての社会保障 2017年 有斐閣				
評価方法	1. 毎回のミニレポート提出の内容による理解度と受講態度 50% 2. 定期試験 50%				

科目コード【131305】

課題に対する フィードバック	<p>1. 毎回のミニレポート等はチェックして次回に返却する。</p> <p>2. 試験問題は持ち帰り、模範解答は公開するので自己再確認すること。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書・資料の該当箇所は必ず読んでから受講すること。</p> <p>事後学習：講義で学んだ内容をノートに整理し、自分の考えをまとめること。ミニレポートは毎授業終了後に提出することを課す。</p> <p>事後学習には 30 分以上の時間を充てること。</p>

授業 回数	項 目	講義内容	担当者
1	総論；社会福祉の基本	社会福祉の概念と考え方の歴史	森山 幹夫
2	総論；社会福祉の要素	社会福祉に対する国民の意識と看護との関係	森山 幹夫
3	分野論；障害を持つ人と福祉①	障害とは何か、障害の歴史	森山 幹夫
4	分野論；障害を持つ人と福祉②	障害施策、法制度と看護との関係	森山 幹夫
5	分野論；高齢と福祉①	高齢は果たして問題か。高齢者福祉の歴史	森山 幹夫
6	分野論；高齢と福祉②	高齢者福祉施策、法制度と看護との関係	森山 幹夫
7	分野論；母子福祉と女性①	母子福祉問題と女性問題	森山 幹夫
8	分野論；母子福祉と女性②	母子を支える様々な社会制度	森山 幹夫
9	分野論；生活保護	生活の最後のセーフティネットの意義と問題点	森山 幹夫
10	分野論；多様な福祉	ホームレス、孤独死などの多様な課題と福祉	森山 幹夫
11	周辺論；差別と虐待	差別と虐待について根源と対応を考察	森山 幹夫
12	周辺論；事故と危機管理	事故と虐待問題について根源と対応を考察	森山 幹夫
13	手法論；専門職	福祉専門職と看護職との関係、財政・計画を考察	森山 幹夫
14	手法論；看護・医療と福祉	看護・医療と福祉との関係と連携を考察	森山 幹夫
15	結論；社会福祉の将来展望	福祉の問題点をまとめ将来を展望する。	森山 幹夫
—	定期試験		

科 目	科目区分	単位数 (1 単位当 りの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護対象論 I (ライフサイクル)	専門科目	2 単位 (15 時間)	必修	2 年前期	講義
	生活環境と 看護の対象				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]鈴木祐子 [担当教員]小室佳文 小林信 鈴木祐子 田所良之 平井和恵		小林信：第 1 看護 506 研究室 (nkoba027@tokyo-med.ac.jp)、小室佳文：第 1 看護 405 研究室 (komuro@tokyo-med.ac.jp)、鈴木祐子： 第 1 看護 404 研究室 (syuko410@tokyo-med.ac.jp)、 田所良之：第 1 看護 505 研究室 (taddy.via.tokyomed.ac.jp@gmail.com)、 平井和恵：第 1 看護 406 研究室 (k-hirai@tokyo-med.ac.jp)			
授業のねらい	人間発達学の観点から、看護の対象者である人間の理解を深める。ライフサイクルの各段階における心身の特徴および特徴的な健康課題を学ぶ。人間の発達を理解し、看護の各領域の教員が教授する。(オムニバス方式/全 15 回) 人間の発達について概説し、看護の対象である人間への理解を深める。さらに「ライフサイクル」理論を中心として、人間の発達に関する理論を学習する。子どもに関する発達理論、子ども期各期の成長発達の特徴、および家族の理解を通して、子どもが健やかに育つための支援のあり方を学習する。成人期における成長発達の特徴と課題、特徴的な健康課題を理解し、支援のあり方を学習する。女性のライフサイクルの特徴と思春期、成熟期、更年期、老年期における健康と心理・社会的な特徴について理解し、必要な看護について学習する。老年期の特徴と発達課題、さらに老年期における変化ならびに生活と健康課題を理解し、支援のあり方を学習する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				

<p>到達目標</p>	<p>1. 人間の発達について関心を持ち理解し、看護の対象について説明できる。</p> <p>2. ライフサイクル各期における発達課題について説明できる。</p> <p>1) 子どもの形態的・機能的・心理社会的発達の原則を説明でき。</p> <p>2) 成人期（青年期・壮年期/中年期・向老期）における身体的・心理社会的特徴、発達課題について説明できる。</p> <p>3) 思春期・成熟期・更年期・老年期における女性の身体的・心理社会的特徴、発達課題について説明できる。</p> <p>4) 老年期における身体的・心理社会的特徴、発達課題について説明できる。</p> <p>3. ライフサイクル各期における特徴的な健康問題と必要な支援のあり方について説明できる。</p> <p>1) 子ども期各期に生じやすい健康問題と支援のあり方について説明できる。</p> <p>2) 成人期における生活習慣・生活ストレス・職業や社会的側面に関連する健康課題と支援のあり方を説明できる。</p> <p>3) 女性のライフサイクルにおける現状と課題および健康課題、女性性の発達について説明できる。</p> <p>4) 老年期における変化ならびに生活健康問題、その支援のあり方について説明できる。</p>
<p>教科書</p>	<p>生涯人間発達学 改訂第2版増補版（三輪書店） デジタルナーシング・グラフィカ 2016（メディカ出版）</p>
<p>参考図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） ・新体系 看護学全書 小児看護学①小児看護学概論 小児保健（メヂカルフレンド社） ・看護学テキストシリーズ NiCE 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助 改訂第2版（南江堂） ・舟島なをみ 看護のための人間発達学 第4版（医学書院） ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 第14版（医学書院） ・エリクソン, E. H. 著, 西平直他訳, アイデンティティとライフ・サイクル, 2011（誠信書房） ・厚生統計協会編, 国民衛生の動向 2014/2015 版 厚生指針 2014（厚生労働統計協会） ・ウィメンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナーシング 第2版（ヌーヴェルヒロカワ） ・ウーマンズヘルス 女性のライフステージとヘルスケア（医歯薬出版） ・看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論 改訂第2版「老いを生きる」

科目コード【3205】

	を支えることとは，2016（南江堂） ・看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学技術 改訂第2版 最後までその人らしく生きることを支援する，2016（南江堂）
評価方法	定期試験 90% 課題 10%
課題に対するフィードバック	授業時間内に、適宜、担当者からフィードバックします。 試験終了後に、適宜、担当者からフィードバックします。
事前・事後学習	この科目は、ライフサイクル各段階をオムニバスで授業をします。それぞれ特徴的なことを取り上げますので、人間の一生について連続性、関連性を十分に理解してください。事前・事後学習については、各担当者が指示します。 [参考図書] を十分に活用してください。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	授業オリエンテーション 人間の発達と概要	1) 授業の展開方法に関するオリエンテーション 2) 発達に関する基本概念の理解と看護	小林 信
2	発達段階の概説	発達理論の理解 1)：ライフサイクルと発達課題 フロイト、エリクソン、マラーの発達理論	小林 信
3	子どもの発達とは	1) 子どもの発達に影響する要因 2) 子どもの発達の原則と評価の原則	小室佳文
4	発達する子どもと家族の理解	1) 子どもと家族を理解するための理論 愛着、認知発達と子どもの理解、セルフケア 2) 子どもの発達への支援	小室佳文
5	子どもの健康状態と発達への影響	1) 現代の子ども健康状態 2) キャリーオーバー	小室佳文
6	成人とは	1) 成人とは 2) 成人期（青年期・壮年期・向老期）の発達課題	平井和恵
7	成人各期の特徴	成人期(青年期・壮年期・向老期)の身体・心理社会的特徴	平井和恵
8	成人の生活と健康①	1) 成人保健の動向 2) 生活習慣と健康	平井和恵
9	成人の生活と健康②	1) ストレスと健康 2) 職業と健康	平井和恵

科目コード【3205】

10	女性の生涯発達と身体、心理、社会	1) 女性のライフサイクルのステージ 2) 女性の身体（性周期、月経） 3) 女性性の発達、ジェンダー	鈴木祐子
11	ライフサイクルと現代女性の健康	1) ライフサイクルの多様化 2) 女性を応援する健康プログラム 3) 働く女性と健康 4) 女性とメンタルヘルス	鈴木祐子
12	女性のライフサイクル各期の健康と課題	1) 思春期の健康と課題 2) 成熟期の健康と課題 3) 更年期の健康と課題 4) 老年期の健康と課題	鈴木祐子
13	老年期の特徴と発達課題	1) 老年期の身体・心理社会的特徴 2) 老年期における発達課題	田所良之
14	老年期における変化ならびに生活と健康問題、その支援1	老年期における心理社会的変化と生活への影響	田所良之
15	老年期における生活と健康問題、その支援2	老年期における健康問題と生活の場に応じた支援 －高齢者の豊かな生を支える－	田所良之
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
フィジカルアセスメント	専門科目	2単位 (30時間)	必修	2年後期	演習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]伊藤綾子 [担当教員]阿部幸恵 永島美香 天野雅美 小野田舞 清水典子 西村礼子 藤沼小智子		授業後および随時(事前のアポイントによる)・教員研究室 連絡先 伊藤 ayaito@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	健康レベル、生涯発達の段階に応じた対象の身体の状態を診査する手技を獲得し、その経緯や自覚症状などと照らし合わせながら問診を行い、各手技を用いて対象に何が起きているのかをアセスメントするための技術を習得する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. フィジカルアセスメントを行う意義と重要性について説明できる。 2. 対象の成長・発達の段階を考慮した基本的なフィジカルイグザミネーション技術を、正確かつ安全・安楽に実施できる。 3. フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正しく表現できる。 4. 得られた情報に基づいて、対象者に起きていること・起こりうることをアセスメントし、必要な援助を考え、記録することができる。				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント：村上美好監修、インターメディカ ・ ナーシンググラフィカ 2013、第19巻ヘルスアセスメント ・ こどものフィジカルアセスメント：小野田千恵子、金原出版 				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ はじめてのフィジカルアセスメント：横山美樹、メジカルフレンド社 ・ フィジカルアセスメント：清村紀子他編、医学書院 ・ 機能障害から見たからだのメカニズム、清村紀子他編、医学書院 				
評価方法	定期試験 50%、IRAT（個人準備確認テスト）20%、事前・事後課題 20%、ピア評価 10%				

<p>課題に対する フィードバック</p>	<p>授業中に集団および個別にフィードバックを行う。</p>
<p>事前・事後学習</p>	<p>各項目の授業開始時には、IRAT（個人準備確認テスト）を実施します。授業前や授業中に提示する事前課題を十分に学習して授業に臨んで下さい。前の時間の授業・演習内容が後の時間で反映され、積み上げられていくように各授業の復習を必ず行ってください。実施内容・提出方法は授業の際に説明します。</p>

<p>授業 回数</p>	<p>項 目</p>	<p>講義内容</p>	<p>担当者</p>
<p>1 2 3</p>	<p>イントロダクション 問診の技法 所見の記録方法 身体診察技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方 ・ TBL (Team-Based Learning) の方法 ・ シミュレーションルームとシミュレータの機能と使用方法 ・ フィジカルアセスメントの意義 ・ フィジカルアセスメントを行うための基本原則と準備 ・ 対象者に身体的な情報を聞き取る ・ 医療面接で得られた情報を記録する ・ 身体診察に必要な「視診」「触診」「打診」「聴診」の技術を実践し、記録する 	<p>伊藤 阿部、天野、小野田、清水、西村</p>
<p>4 5 6 7</p>	<p>「見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる・話す」機能のフィジカルアセスメント</p>	<p>見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる・話すといった <u>頭頸部・神経系・感覚器系</u> のフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメントを学ぶ</p>	<p>伊藤 阿部、天野、小野田、清水、西村</p>
<p>8 9 10</p>	<p>「身体を守る」機能のフィジカルアセスメント</p>	<p>身体内部への異物や病原体の侵入を防ぐ <u>外表皮系（皮膚・爪）・リンパ系・甲状腺</u> と <u>乳房</u> のフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメントを学ぶ</p>	<p>清水 阿部、伊藤、天野、小野田、西村</p>

科目コード【3304】

11 12	「食べる・栄養をとりこむ」機能のフィジカルアセスメント	栄養素を体にとりこみ生体の機能を維持する <u>消化器系</u> のフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメントを学ぶ	西村 阿部、伊藤、天野、 小野田、清水、
13 14	「排泄する」機能のフィジカルアセスメント	老廃物を体外に排泄する <u>消化器系・泌尿器系</u> のフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメントを学ぶ	西村 阿部、伊藤、天野、 小野田、清水、
15 16 17	「生命を維持する」機能のフィジカルアセスメント【循環】	生命を維持する循環器系のフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメントを学ぶ	阿部 伊藤、天野、小野田、 清水、西村
18 19 20	「生命を維持する」機能のフィジカルアセスメント【呼吸】	生命を維持する <u>呼吸器系</u> のフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメントを学ぶ	阿部 伊藤、天野、小野田、 清水、西村
21 22 23 24	「身体を動かす」機能のフィジカルアセスメント	人間の形態の保持と運動機能に大きく関与する <u>筋・骨格・神経・末梢循環系（神経反射も含む）</u> のフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメントを学ぶ	天野 阿部、伊藤、小野田 清水、西村
25 26	子どものフィジカルアセスメント①	【TBL】 ・子どものフィジカルアセスメントの意義 ・成長発達からみた解剖・生理学的特徴 ・使用する器具と測定方法 ・説明と同意 年齢に応じた接近法 ・グループ「アセスメントガイド」作成	永島 藤沼、伊藤、天野、 清水、西村
27 28	子どものフィジカルアセスメント②	【グループワーク・シミュレーション学習】 シナリオⅠ「1歳6か月児、健康診断で小児科クリニックを受診」 シナリオⅡ「5歳児、就学時健診で小児科クリニックを受診」 問診、一般状態（身体成長発達を含む）、全身状態のフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメント	永島 藤沼、伊藤、天野、 清水、西村

科目コード【3304】

<p>29 30</p>	<p>フィジカルアセスメント シナリオに基づいたフルスケールシミュレーション</p>	<p>① シナリオ課題（成人事例） ② シナリオ課題（成人事例） ③ シナリオ課題（成人事例） ④ シナリオ課題（子ども事例） それぞれのシナリオに沿ってグループ単位でシミュレーション学習を行う。</p>	<p>伊藤 阿部、永島、天野、 小野田、清水、西村、 藤沼</p>
<p>—</p>	<p>定期試験</p>		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
ヘルスプロモーション	専門科目	1単位 (15時間)	必修	2年前期	講義
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]吉岡京子 [担当教員]吉岡京子		オフィスアワーは講義終了後、411 研究室で受け付ける。 メールでも随時受け付ける (kyoko@tokyo-med. ac. jp)。			
授業のねらい	<p>本科目では、人々に看護ケアを提供する上で不可欠なヘルスプロモーションの基本的な考え方を、身近なテーマを題材にしながら学ぶ。個人・家庭・集団・組織を含む地域社会（コミュニティ）および地域を構成する人々の集合体の健康増進・改善をめざすアプローチの基本的な考え方を学ぶ。また、予防の視点を持ち、生活の中でヘルスプロモーションを展開していく方法について学ぶ。</p>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<p>□①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p>□②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p>■③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p>□④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p>□⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p>□⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
到達目標	<p>1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。</p> <p>2. 疾病の予防、寿命の延長、QOL、健康の社会的決定要因について理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。</p> <p>3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。</p>				
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生第13版 (医学書院) および適宜資料を配布する。</p>				
参考図書	<p>実践 ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEED モデルによる企画と評価 ローレンス W. グリーン/マーシャル W. クロイター著、神馬征峰訳、医学書院</p>				
評価方法	<p>定期試験 (60%)、受講態度 (20%)、グループワーク等の課題 (20%) により総合的に評価する。</p> <p>原則として再試験は行わない。</p>				

課題に対する フィードバック	学生は選択したテーマに関する課題を提出する。教員はそれに対し適宜コメントする。
事前・事後学習	<p>事前学習：新聞を毎日読み、健康の維持・増進・改善につながる記事を見つける。事前に配布する資料を一読し、不明点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：講義で学んだ内容をノートに整理し、自分の考えをまとめる。</p> <p>事前・事後学習には0.5時間以上の時間を充てること。</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション 健康を取り巻く様々な状況	オリエンテーション 健康を取り巻く様々な状況について考える。	吉岡
2	ヘルスプロモーションに関する理論1	「ルイスの死」を題材として、健康の社会的決定要因と健康に関する基本的な概念について学ぶ。	吉岡
3	ヘルスプロモーションに関する理論2	ヘルスプロモーションの歴史、PHCなど理論について学ぶ。	吉岡
4	ヘルスプロモーションとアプローチ:ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ	個人・家族・地域・環境・社会のウェルネスについて考える。 個人・集団・地域への効果的な介入方法について学ぶ。	吉岡
5	身近な生活の中のヘルスプロモーション1:たばこ	たばこを題材に、個人・家族・地域におけるヘルスプロモーションについて考える。	吉岡
6	身近な生活の中のヘルスプロモーション2:アルコール	アルコールを題材に、個人・家族・地域におけるヘルスプロモーションについて考える。	吉岡
7	身近な生活の中のヘルスプロモーション3:睡眠	睡眠を題材に、個人・家族・地域におけるヘルスプロモーションについて考える。	吉岡
8	地域の力を活用したヘルスプロモーションの推進	「自助・公助・共助」、ソーシャルキャピタル、ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートについて学ぶ。	吉岡
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護サービス提供論	専門科目	1単位 (30時間)	必修	2年前期	講義
	看護提供のしくみ				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 阿部祝子 [担当教員] 阿部祝子 小野田舞		講義終了後または事前にアポとって研究室に来てください 連絡先 阿部祝子： 小野田舞：m-onoda@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	多様な看護活動が地域、保健・医療・福祉施設、行政等でどのようなシステムによって展開されているかを知り、看護システム実習での学びと併せて、看護サービス提供システムを発展、変革させるための課題について考察する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 日本における保健・医療システムについて説明できる。 2. 看護サービス提供システムの基本的仕組みについて説明できる。 3. 看護サービス提供に関わる多職種とその連携について説明できる。 3. 看護サービス提供システムの現状と課題を述べるができる。 3. 看護サービスを発展させる方法について、自らの考えを述べるができる。				
教科書	デジタルナーシンググラフィカ 38 看護管理：メディカ出版 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理：医学書院				
参考図書	デジタルナーシンググラフィカ 16 社会福祉と社会保障・17 医療関係法規・39 医療安全 メディカ出版				
評価方法	レポート 60% 課題・ミニレポート 30% グループワーク貢献 10%				
課題に対するフィードバック	講義中に、ミニレポートに対するフィードバックを行う。				
事前・事後学習	事前課題：あらかじめ必要な資料や情報を収集してから講義およびグループワークに臨むこと。 事後課題：講義中に示された要点をメモして復習すること。				

科目コード【3402】

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	「看護サービス提供論」の概説	看護サービスとホスピタリティ 看護サービス提供の仕組み	阿部
2	看護サービス提供の仕組み 1	事例に基づき医療・看護サービスの提供体制を考える① (患者の受傷から自宅療養までの経過を整理し、機関連携や多職種連携を考える)	阿部
3	看護サービス提供の仕組み 2	事例に基づき医療・看護サービスの提供体制を考える② (第2回の続き)	阿部
4	看護サービス提供に関わる看護職 1	看護職の専門性を考える (看護の質向上に寄与するための看護の専門性とは)	小野田
5	看護サービス提供に関わる看護職 2	多様化する看護職の役割を考える (看護師、助産師、保健師、CNS 等看護分野の専門家、特定行為に係る看護師の研修制度など)	小野田
6	病院における看護サービス 1	病院組織における看護職の役割 (病院組織における看護職の位置づけ、組織理念、看護部理念に基づく看護活動)	阿部
7	病院における看護サービス 2	看護単位の機能と特徴について 看護ケア提供システムについて	阿部
8	病院における看護サービス 3	看護職者への組織的支援 (キャリア支援、労働環境、各種マネジメントツールの活用、医療安全対策)	阿部
9	病院における看護サービス 4	日本の医療保険制度の概要 (サービスへの対価としての診療報酬制度の概要、看護師配置基準)	小野田
10	診療情報の取り扱い	診療情報の取り扱いと法的根拠 診療情報の特徴、プライバシーの保護、個人情報保護、守秘義務等	阿部
看護システム実習期間 (6/19~6/23)			
11	看護実践現場における看護サービスの振り返り 1	看護サービスの質向上を目指す物理的環境の整備 (病院・病棟の構造、物品の配置と看護活動) ※看護システム実習での学びを活かし、快適性、安全性、効率性の視点を考える	阿部

科目コード【3402】

12	看護実践現場における看護サービスの振り返り 2	看護サービスの質向上を目指す医療安全対策 ※看護システム実習での学びを活かし、医療安全対策を考える	阿部
13	看護実践現場における看護サービスの振り返り 3	看護サービスの質向上を目指す評価の仕組み 病院機能評価	小野田
14	看護実践現場における看護サービスの振り返り 4	看護サービスの質向上を目指す評価の仕組み 病院機能評価	小野田
15	患者・利用者から見た看護サービス	患者の声、看護職の声を病院組織に反映する 仕組みと実際 病院における、「よりよい看護サービス」を提供する仕組みづくり	阿部

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護システム実習	専門科目	1単位 (45時間)	必修	2年前期	実習
	看護提供のしくみ				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 阿部祝子 [担当教員] 阿部祝子 小野田舞 ほか 看護学科教員		事前にアポとって研究室に来てください 連絡先 阿部祝子： 小野田舞：m-onoda@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	<p>1. 対象の健康問題に応じた看護が、どのような保健・医療・福祉システムによって、提供されているか、対象との関わりを通して学ぶ。</p> <p>2. 対象に提供されている看護について、看護の継続性、制度間・職種間の連携の実際、および看護の役割を学ぶ。</p>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)	<p><input checked="" type="checkbox"/>①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p><input type="checkbox"/>⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
到達目標	<p>1. 対象への看護提供場面を通して、対象の健康問題に応じて提供されている看護が、どのような医療・保健・福祉システムによって提供されているか事例をあげて説明できる。</p> <p>2. 看護がどのように継続するのか、また、継続することの意味について事例を通して説明できる。</p> <p>3. 対象に関わる職種が、どのような役割を果たして一つのチームとして連携し、医療を提供しているか事例をあげて説明できる。</p> <p>4. 対象に関わる多職種間の連携における看護の役割を説明できる。</p>				
教科書	看護管理に関連する科目(看護サービス提供論、社会保障制度論など)の教科書、授業資料				
参考図書	デジタルナースンググラフィカ				

科目コード【3403】

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時間の1/5を超えて欠席した場合は単位認定の評価の対象にはならない。 ・到達目標の達成度60%、学習者としての姿勢・態度20%、実習記録およびレポート20%とし、総合的に評価を行う。 ・評価はS、A、B、C、Dの5段階で行い、S、A、B、Cを合格とする。
課題に対する フィードバック	実習中やカンファレンス、実習終了後など、集団または個別にフィードバックする。
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の学びから得た自身の看護に対する見方や考え方を、A4レポート用紙1枚にまとめる。(実習初日までに記載し、実習記録に綴じておく) ・実習にあたり、看護サービス提供論や社会保障制度論での学びから、看護提供に関わる制度について各自で復習をしておく。

実習 日数	項 目	講義内容	担当者
	実習前オリエンテーション	日程が決まり次第、時間割およびe自主自学にて連絡する	阿部・小野田
1	実習	オリエンテーション	阿部・小野田 看護学科教員
2	実習	病棟実習	阿部・小野田 看護学科教員
3	実習	病棟実習	阿部・小野田 看護学科教員
4	実習	病棟実習	阿部・小野田 看護学科教員
5	実習（学内）	実習まとめ（グループワーク）	阿部・小野田 看護学科教員

- 1) 実習内容の詳細は実習要項を参照すること。
- 2) 実習前オリエンテーションにて実習要項の配布および説明を行うので、必ず参加すること。
実習前オリエンテーションの日程は決まり次第、時間割およびe自主自学にて連絡する。
- 3) 実習先は東京医科大学病院（西新宿）と八王子医療センター（高尾）の2か所である。
配置希望調査は4月の看護サービス提供論講義内で説明・実施する。

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
健康と身体活動	一般教育科目	2単位 (15時間)	必修	2年後期	講義
	人を知る				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 浜岡 隆文 [担当教員] 浜岡 隆文、木目良太郎、黒澤 裕子、 村瀬 訓生、杉本 昌弘、布施沙由理		木曜日 17:00～18:00 第一校舎 3F、健康増進スポーツ医学分野 第一研究室			
授業のねらい	わが国では、世界的に類をみない平均寿命の延びに伴う急速な人口の高齢化が進んだ結果、生活習慣病保有率や要介護者の増加が大きな社会問題となっている。この問題を解決するには、疾患の発症あるいは要介護の状態になる前の、より早い時期における対策（一次予防）が必要である。具体的には、身体活動や食事などの生活習慣を適切に維持することである。身体活動を安全かつ効果的に実施するには、地域、職域、医療機関など多くの場における医療従事者、運動指導者など多くの職種の連携が必須となる。ここでは、運動生理学の基本的事項と身体活動の疾病予防効果について理解し、そのための指導法を学ぶ事を目標とする。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 健康維持における運動の重要性について述べるができる。 2. 身体状況（年齢、疾患保有状況）に応じた身体活動（運動）の種類、強度、時間などとその評価基準について述べるができる。 3. 運動時の筋エネルギー代謝や筋代謝に影響を及ぼす筋線維組成の種類について説明できる。 4. 運動中呼吸応答、ならびに心臓や臓器、骨格筋の循環調節について説明できる。 5. 運動時に起こる疲労および疲労感の機序について説明できる。 6. 環境条件や性・年齢による運動の注意点や問題点の相違について説明できる。 7. 近年の子供の身体活動と生活習慣病の関係について説明できる。 8. 不活動などの長期臥床や加齢による身体の変化とそれらを予防する運動の関				

科目コード【1202】

	<p>係について説明できる。</p> <p>9. 心疾患患者のリハビリテーションの効果や方法について説明できる。</p> <p>10. 健康に関するビッグデータの活用について説明できる。</p>
教科書	特になし
参考図書	<p>入門運動生理学 第4版 (杏林書院)</p> <p>健康・スポーツ科学講義 第2版 (杏林書院)</p>
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィードバック	定期試験の点数について質問がある場合は個別に対応する。
事前・事後学習	事前学習は特に必要なし。事後学習は、講義時に配布する資料を中心に復習すること。(目安時間1時間程度) 復習時に疑問点が生じた場合は担当教員まで質問に来ること。

科目コード【1202】

授業回数	項目	講義内容	担当者
1 9/28 (木) 3 限	スポーツ医学概論	健康維持における運動の重要性 体力の定義、身体に加齢変化	浜岡 隆文
2 10/5 (木) 3 限	筋線維組成と筋エネルギー代謝	筋線維の種類とその生理的特徴 運動強度および運動継続時間と筋エネルギー代謝との関係	木目良太郎
3 10/11 (水) 2 限	運動と生活習慣病	生活習慣病の増加の予防・改善における運動の役割	北原 綾
4 10/19 (木) 3 限	身体活動量と評価基準	健康増進・疾病予防のために実施する身体活動(運動)の種類、強度、時間などの評価基準	浜岡 隆文
5 10/26 (木) 3 限	運動中の呼吸応答、末梢循環	運動時における呼吸応答の機序 最大酸素摂取量や無酸素性作業閾値の測定方法やスポーツ医学的意義 運動時の骨格筋を中心とした血流再分配 血管内皮機能による血管拡張作用	木目良太郎
6 11/1 (水) 2 限	運動中の中心循環	運動時の心機能特性と循環応答 運動能力に影響を及ぼす因子	北原 綾
7 11/9 (木) 3 限	運動と栄養、食事	各栄養素の機能と代謝、スポーツ選手の栄養サポート スポーツ選手の適切なサプリメント摂取	黒澤 裕子
8 11/16 (木) 3 限	トレーニング	様々なトレーニング方法とその運動療法への応用と注意点	木目良太郎
9 11/30 (木) 3 限	運動と環境	低圧環境、高圧環境、低酸素環境などで運動を実施する場合の注意点や問題点 暑熱環境での運動と熱中症	木目良太郎
10 12/7 (木) 3 限	疲労と脳神経活動	全身運動時における疲労の発生機序 代謝性因子や環境因子が中枢性疲労に及ぼす影響	木目良太郎
11 12/14 (木) 3 限	女性と運動	女性が運動を行う場合の注意点や問題点 健康づくりに対するライフステージ毎の運動の役割と注意点	布施沙由理
12	高齢者と運動	不活動に伴う廃用症候群	北原 綾

科目コード【1202】

12/20 (水) 2 限		加齢に伴うサルコペニアの概念 骨粗鬆症による転倒骨折	
13 1/10 (水) 2 限	健康データの分析	運動時に観測できる様々なデータの解析とその解釈	杉本 昌弘
14 1/11 (木) 1 限	健康障害とメディカルチェック	運動による健康障害の種類と特徴 生活習慣病者が運動療法をする場合や健常者がスポーツ競技に参加する場合のメディカルチェックの要点	村瀬 訓生
15 1/11 (木) 2 限	心臓リハビリテーション	虚血性心疾患や心臓手術後に行われる心臓リハビリテーションの対象疾患および有効性や実施方法	村瀬 訓生
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
診断治療学Ⅲ（精神科）	専門基礎科目	1単位 (15時間)	必修	2年後期	講義
	病気と治療				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]石川 純 [担当教員]市来真彦、佐藤光彦、松本恭典		メールにて適宜質問を受け付ける。来室を希望するときはアポイントメントをとること。 seisinka@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	人のこころの仕組みや働きを理解し、精神の健康、精神障害および精神疾患について学ぶ。代表的な精神疾患について、主要な症状、検査の目的・方法、診断、治療について学ぶ。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 精神医学の基本概念を理解する。 2. 代表的な精神疾患について症状や診断、治療法を理解する。 3. 精神保健福祉法の概念を理解する。				
教科書	特に指定しない。授業中に資料を配布する。				
参考図書	STEP 精神科 海馬書房				
評価方法	定期試験 100%				
課題に対するフィードバック	試験終了後、e 自主自学により問題別にフィードバックいたします。				
事前・事後学習	事前学習：e 自主自学にて事前テストを必ず受験してから授業に臨むこと。 事後学習：e 自主自学にて事後テストを受験し、自己の学習成果を確認すること。				

科目コード【2109】

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	序論	精神医学とは	市来 真彦
2	精神疾患	気分障害	石川 純
3	精神疾患	統合失調症	市来 真彦
4	精神疾患	不安障害、ストレス関連障害	松本 恭典
5	精神疾患	アルコール及び物質関連障害	石川 純
6	精神疾患	摂食障害、人格障害	松本 恭典
7	精神科治療	薬物療法、精神療法	石川 純
8	精神保健福祉法	精神保健福祉法の概念 精神医療と社会（司法精神医学）	佐藤 光彦
—	定期試験		

科目コード【2105】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
感染免疫学	専門基礎科目	1単位 (15時間)	必修	2年後期	講義
	病気と治療				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目担当者] 松本哲哉 [担当教員] 大楠清文、小林 了、宮崎治子		月曜・水曜 昼休み・16:00~17:00 場所は、第一校舎2階、微生物学分野、集会室			
授業のねらい	感染症を起こす各種病原体の特徴を理解し、病原因子や薬剤耐性についてもその概略を理解する。一方、病原体に対抗する宿主の防御機構をよく知り、免疫の働きについて理解する。各種疾患や治療に伴う免疫不全の状態と、それによって起こる日和見感染症についても理解する。感染症の診断と治療の基本を知り、さらに感染症の患者の看護と感染対策について学ぶ。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 各種微生物の特徴を理解することができる。 2. 宿主の防御機構や免疫の役割について関心を持つことができる。 3. 感染症の病態を理解し、思考することができる。 4. 感染症患者の看護の基本と技術を知ることができる。 5. 感染対策の具体的方法を知り、態度や行動で示すことができる。 6. ワクチンなど感染症の予防法の概略を理解できる。				
教科書	ナーシンググラフィカ 臨床微生物・医動物 矢野久子他 2014年 メディカ出版				
参考図書	系統看護学講座 臨床検査 奈良信雄他 2015年 医学書院 イラストレイテッド微生物学 第3版 舘田一博他 2014年 丸善出版				
評価方法	定期試験 100%				
課題に対するフィードバック	試験終了後、模範解答をe自主自学によりフィードバックします。				

科目コード【2105】

事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の該当箇所は読んでおくこと。</p> <p>事後学習：講義で得られた内容のポイントを確認しておく。</p>
----------------	--

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	感染と免疫	宿主の防御機構と免疫の役割を理解する。	松本 哲哉
2	伝播予防策と院内感染	各種病原体の伝播予防策の基本と院内感染の特徴を理解する。	松本 哲哉
3	ウイルス感染症(1)	インフルエンザ、ノロウイルス感染症、風疹、麻疹、ムンプス、水痘などの特徴を理解する。	小林 了
4	ウイルス感染症(2)	肝炎ウイルス、HIV、サイトメガロウイルス、EBウイルス、ヘルペスウイルスなどの特徴を理解する。	小林 了
5	細菌感染症	細菌感染症全般の特徴を理解する。	大楠 清文
6	特殊な感染症	抗酸菌、マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア感染症の特徴を理解する。	大楠 清文
7	真菌感染症	真菌感染症全般の特徴を理解する。	宮崎 治子
8	感染症の予防	各種ワクチンを含めた感染予防全般の特徴を理解する。	宮崎 治子
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
臨床薬理学	専門基礎科目	2単位 (15時間)	必修	2年前期	講義
	病気と治療				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] [担当教員] 稲津 正人		講義日 17:00~18:00 第3校舎3階、講義担当者の居室			
授業のねらい	薬物が、生体にどのような影響をおよぼすのか、生体と薬物の相互作用について学習する。薬物の種類、性質、特徴、作用機序、薬理作用、副作用について理解する。また代表的な薬物療法の実際について学び、薬物療法実施時の支援方法について理解する。さらに医薬品の種類や適用、医薬品に関連する法令について学び、臨床で実践されている薬物療法に関する知識を理解する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	薬物の作用機序、作用点や薬効発現あるいは相互作用の要因となる吸収、分布、代謝、排泄などの薬理学的知識を習得する。さらに、主な疾患の成因・病態を理解し、薬による治療戦略(治療効果)、用いられる薬の作用機序と副作用、禁忌などの薬物治療学的知識を習得し、各薬物の効果的な使用方法について説明できることを目標とする。				
教科書	ナーシンググラフィカ疾病の成り立ち 臨床薬理学 古川裕之 他、2013年、メディカ出版				
参考図書	1. 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学 (第13版)、吉岡充弘 他、2014年、医学書院 2. 図解 薬理学 病態生理から考える薬の効くメカニズムと治療戦略、越前宏俊、2008年、医学書院				
評価方法	定期試験 100%				

科目コード【2106】

課題に対する フィードバック	e 自主自学のサイトからフィードバックを行う
事前・事後学習	事前学習：教科書の該当箇所は必ず読んでから受講すること。 事後学習：講義で学んだ内容をノートに整理しておくこと。

授業 回数	項 目	講義内容	担当者
1	薬理学総論	薬物の生体での反応、薬物の作用様式および薬物動態を理解する	稲津 正人
2	自律神経系作用薬	自律神経系支配を受ける各種効果器官に作用する伝達物質ならびに薬物の働きを理解する	稲津 正人
3	呼吸器系作用薬	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患の病態と治療薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
4	消化器系作用薬	消化性潰瘍の病態と治療薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
5	循環器系作用薬（1）	高血圧、虚血性心疾患、・脂質異常症の病態と治療薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
6	循環器系作用薬（2）	心不全・不整脈の病態と治療薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
7	中枢神経系作用薬（1）	パーキンソン病・アルツハイマー病の病態と治療薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
8	中枢神経系作用薬（2）	統合失調症、うつ病・神経症・心身症の病態と治療薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
9	抗炎症薬	炎症反応について理解し、解熱性鎮痛薬、抗炎症薬および抗アレルギー薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
10	鎮痛薬	痛みの神経機構を学び、脳内オピオイド受容体を介する麻薬性鎮痛薬の薬理作用、作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
11	血液作用薬	血液凝固系を理解し、抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血栓薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
12	抗感染症治療薬（1）	抗生物質の作用機序および主な副作用を理解	稲津 正人

科目コード【2106】

		する	
13	抗感染症治療薬（2）	抗ウイルス薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
14	抗悪性腫瘍治療薬	各種抗悪性腫瘍薬の作用機序および主な副作用を理解する	稲津 正人
15	内分泌治療薬	糖尿病、甲状腺機能異常症の病態と治療薬の作用機序および副作用	稲津 正人
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
保健統計学	専門基礎科目	2単位 (15時間)	必修	2年後期	講義
	保健医療福祉のしくみ				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 倉田 誠 [担当教員] 倉田 誠		水曜 13:00～14:30 金曜 15:00～17:00 第三校舎 2階 生命倫理学研究室(倉田研究室) メールアドレス：m-kurata@tokyo.med.ac.jp			
授業のねらい	この授業では、疫学や公衆衛生学の考え方を学ぶとともに、それにもとづいた保健・医療・福祉領域の統計指標のもつ意味や活用方法などを習得します。まず前半は疫学研究の基礎的な方法論を学びます。そして、後半は実際の保健統計資料を活用しながら、有病率や罹患率、致命率や死亡率といった各指標の意味と日本社会の現状や課題を把握します。このような過程を経て、保健活動に関わるうえで必要となる基礎知識の習得を目指します。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	(1) 疫学研究で用いられる基礎的な概念や方法論を説明できる。 (2) 保健統計資料で用いられる各指標の意味を説明できる。 (3) 実際の保健統計資料から対象社会の現状や課題を把握することができる。 (4) 保健関連の調査や分析を行ううえで、関連資料を正確に読み込み、各指標や方法を適切に用いることができる。				
教科書	看護学生のための疫学・保健統計 浅野嘉延 南山堂 国民衛生の動向(最新年度版) 厚生労働統計協会(*図説版ではない)				
参考図書	疫学ノート 基礎から実践まで 柳川洋 日本公衆衛生協会 保健統計・疫学 福富和夫・橋本修二 南山堂				
評価方法	グループワークへの参加 30% 相互評価・復習テスト 20% 期末試験 50%				

<p>課題に対する フィードバック</p>	<p>グループワーク等の成果は「e 自主自学」上にアップロードし、必要に応じて講評を行います。</p>
<p>事前・事後学習</p>	<p>事前学習：すでに「統計学」を履修していることが望ましいですが、履修していない場合でも教科書の該当部分を使って予習をすれば問題ありません。授業前に予定されている課題を読み、必要な情報や関連する統計資料などを自主的に収集・整理してきてください。</p> <p>事後学習：授業中に検討した内容を整理してノートに記入しておいてください。また、復習用のプリントも配布しますので、そこに記載されているキーワードがすべて理解できているか確認してください。授業内容やプリントについて不明な点がある場合は、オフィスアワー等を活用して教員に質問してください。</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション	看護・保健分野における保健統計学の位置づけを解説し、今後の授業方針を説明します。	倉田 誠
2	標本抽出	「単純無作為抽出」「系統抽出」「多段抽出」「層化抽出」といった標本抽出の方法を示し、様々な事例を挙げながらそれぞれの利点や特徴を解説します。	倉田 誠
3	症例対照研究とコホート研究	「横断研究」と「縦断研究」の違いを説明したうえで、事例にもとづいて「コホート研究（前向き／後向き）」を紹介し、「相対危険」と「寄与危険」の意味や求め方を習得します。	倉田 誠
4	症例対照研究	事例にもとづいて「症例対照研究」を紹介し、「オッズ比」の意味と求め方を習得します。	倉田 誠
5	因果関係の推定	「必要条件」と「十分条件」を用いて因果関係の考え方を整理します。また、因果関係を推定するうえで陥りやすい各種の「バイアス」についても具体的な事例を挙げ紹介します。	倉田 誠
6	スクリーニングのねらいと精度	スクリーニングのねらいや手順を解説したうえで、具体的な事例から「偽陽性率」「偽陰性率」「陽性反応的中立」「陰性反応的中立」といった各種の数値を算出してみます。	倉田 誠
7	スクリーニングレベルの設定	具体的な事例から「敏感度」と「特異度」を算出し、より適切なスクリーニングレベルの設定を考えます。	倉田 誠
8	有病率と罹患率	疾病関連の指標のうち、「有病率」と「罹患率」を取り上げ、実際の統計からそれらを算出し	倉田 誠

科目コード【2201】

		てみます。また、それらの相互関係についても考えます。	
9	致命率と死亡率	疾病関連の指標のうち、「致命率」と「死亡率」を取り上げ、実際の統計からそれらを算出してみます。また、「死亡率」に「年齢調整」を加える方法や予防効果による各指標の変化についても学びます。	倉田 誠
10	統計資料の活用(1)：人口統計	保健統計資料のうち、「人口静態統計」と「人口動態統計」の概要と活用方法を学びます。実際の統計資料から、各種の「人口指数」や「出生／死亡率」や「平均余命／平均寿命」を算出してみます。	倉田 誠
11	統計資料の活用(2)：死因統計	保健統計資料のうち、「死因統計」の概要と活用方法を学びます。実際の統計資料から、各種の「死亡率」を算出してみるとともに、主要な疾病に関してはその推移や動向についても解説します。	倉田 誠
12	統計資料の活用(3)：その他統計	保健統計資料のうち、「国民生活基礎調査」「国民健康・栄養調査」「患者調査」「医療施設調査」などを取り上げ、その概要と活用方法を学びます。また、各指標に関連する日本社会の現状も解説します。	倉田 誠
13	感染症(1)：感染症の疫学	主要感染症の「感染要因」を概説し、複数の事例から感染症拡大のメカニズムを示し、適切な予防と介入の手段を考えます。	倉田 誠
14	感染症(2)：感染症関連法規	「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」「予防接種法」「検疫法」等を紹介し、日本社会における感染症対策の実情を解説します。	倉田 誠
15	まとめ	いくつかの具体的な課題を考えながら、これまでの学習内容を整理します。	倉田 誠
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
医療安全管理論	専門基礎科目	1単位 (15時間)	必修	2年後期	講義
	保健医療福祉のしくみ				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]三木保 [担当教員]三木保、浦松雅史		東京医科大学医療の質・安全管理学分野 03-3342-6111 内線 5766 mikit@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	医療における安全管理の理論を理解するとともに、臨床現場における取り組みの実際を知り、医療安全に関する考え方を理解する。安全で信頼される医療を提供するための医療チームの一員としての必要な知識と行動について学習する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. リスク発生の原理とヒューマンエラーについて理解する。 2. 社会・医療施設における医療安全のシステムを理解する。 3. リスク管理の考え方とその取り組みについて理解する。 4. 看護ケアにともない発生するインシデント、事故事例について学び、臨床現場でのリスク管理を理解する。 5. 医療の不確実性と医療の質・安全について説明できる。 6. 医療安全文化の意義について理解し、考察する事ができる。				
教科書	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践 (2) 医療安全 第3版 松下由美子 他 2017年 メディカ出版				
参考図書	医療安全管理実務者標準テキスト (監修) 一般社団法人日本臨床医学リスクマネジメント学会 2016年 へるす出版				
評価方法	定期試験 70% 授業への取り組み 30%				
課題に対するフィードバック	試験終了後、e-自主自学により課題別にフィードバックを行う。				

科目コード【2205】

事前・事後学習	<p>事前学習： 指定教科書の当該項目は読んでから受講すること。普段より医療事故等の報道記事に注視する。</p> <p>事後学習： 講義で学んだ内容をノートに整理し、講義後に出される論点について自己の考察をまとめておくこと。</p>
----------------	--

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	医療安全と看護の概念	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全の意味とその重要性 ・看護職の法的規定と医療安全 	三木保
2	医療安全への取り組みと医療の質の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・国の医療安全への取り組み ・医療事故の定義 ・医療事故報告制度 ・医療の質の評価 	三木保
3	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・事故発生のメカニズム ・事故分析 ・事故対策 	浦松雅史
4	看護における医療事故と安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・看護業務と事故発生要因 ・医療事故の種類：その分析と対策 	浦松雅史
5	在宅看護における医療事故と安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護の現状 ・在宅看護における医療事故とその対応 ・在宅看護におけるリスク管理の現状と課題 	浦松雅史
6	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の使用に関わるもの ・医薬品への曝露 ・労働形態、作業に伴うもの ・患者、同僚及び第三者による暴力 	浦松雅史
7	患者・家族との協同と安全文化の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・患者・家族との協同 ・医療安全管理者の役割 ・安全文化の醸成 	三木保
8	医療事故後の対応 看護学生の実習と安全	<ul style="list-style-type: none"> ・医療事故発生時の初期対応の考え方と方法 ・紛争化の防止対策 ・看護技術とリスクと安全 	三木保
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
チーム医療論	専門基礎科目	1単位 (15時間)	必修	2年後期	講義
	保健医療福祉のしくみ				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]阿部幸恵 [担当教員]阿部祝子、天野雅美、伊藤綾子、小野田舞、清水典子、西村礼子		授業後または随時、事前のアポイントによる 阿部幸恵 y-abe@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	<p>この科目では、医学科、看護学科、薬学科の学生による多職種連携授業を行う。多職種連携授業を通して、各職種の現象に対する視点や考え方の違いや共通点に気付くことができ、協働作業を通して連携の重要性や、お互いの職種の役割について理解できることを目指す。</p> <p>また、チーム医療が生まれた背景や、チーム医療の理念、要素、チームマネジメントについて学習し、チーム医療の効果や困難について理解し、チーム医療における看護の役割を考えることができるようになることを目指す。</p>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<p><input checked="" type="checkbox"/>①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p><input type="checkbox"/>⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
到達目標	<p>1) チーム医療の背景、理念、要素について理解できる。</p> <p>2) チーム医療の効果や困難について理解できる。</p> <p>3) チーム医療における看護の役割について考えることができる。</p> <p>4) 多職種連携授業を通して、各職種の考え方や視点の違いに気付くことができる。</p> <p>5) 多職種連携授業の協働作業を通して、連携の重要性が理解できる。</p>				
教科書	必要時指示する				
参考図書	<p>細田満和子著：「チーム医療」とは何かー医療ケアに生かす社会学からのアプローチ 日本看護協会出版会、2012年</p> <p>鷹野和美編著；チーム医療論、医歯薬出版株式会社、2002年</p> <p>篠田道子著：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル</p>				

科目コード【2204】

評価方法	定期試験 50%、授業レポート・授業への参加度 30%、事前・事後課題 20%
課題に対する フィードバック	授業中に個人または集団に対してフィードバックを行う。
事前・事後学習	事前課題を仕上げ、授業に臨んで下さい。また、事後課題を課すので、授業で学習した内容を振り返り、提出してください。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	ガイダンス チーム医療の歴史的背景と理念	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療が生まれてきた背景と理念 ・チーム STEPS ・多職種連携の意義 	阿部幸恵
2 3	多職種連携授業 (1回目・2回目) 医学科と東京薬科大学薬学科の学生との合同授業	医学科、看護学科、薬学科の学生を3グループに分け、次の課題に協働して取り組む。 A班：看護シミュレーション演習① B班：看護シミュレーション演習② C班：症例についてのディスカッション	阿部幸恵 阿部祝子、天野雅美、伊藤綾子、小野田舞、清水典子、西村礼子
4 5	多職種連携授業 (5回目・6回目) 医学科と東京薬科大学薬学科の学生との合同授業	医学科、看護学科、薬学科の学生を3グループに分け、次の課題に協働して取り組む。 A班：看護シミュレーション演習① B班：看護シミュレーション演習② C班：症例についてのディスカッション	阿部幸恵 阿部祝子、天野雅美、伊藤綾子、小野田舞、清水典子、西村礼子
6 7	多職種連携授業 (7回目・8回目) 医学科と東京薬科大学薬学科の学生との合同授業	医学科、看護学科、薬学科の学生を3グループに分け、次の課題に協働して取り組む。 A班：看護シミュレーション演習① B班：看護シミュレーション演習② C班：症例についてのディスカッション	阿部幸恵 阿部祝子、天野雅美、伊藤綾子、小野田舞、清水典子、西村礼子
8	チーム医療の実際と看護の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場のチーム医療の実際 (NST・褥創・感染チームなど) ・多職種連携における看護の役割と責任 	阿部幸恵
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
保健医療福祉 ネットワーク論	専門基礎科目	1単位 (15時間)	選択	2年後期	講義
	保健医療福祉 のしくみ				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]森山幹夫 [担当教員] 森山幹夫		原則 火曜・水曜日 9:00～10:00 場所 森山研究室503 moriyamamikio@yahoo.co.jp			
授業のねらい	私たちの生活を守る社会保障制度の意義、目的及び機能について、社会保障制度論を深く掘り下げるとともに、各制度間の関係がどのようになっているのか、その連携はどうあるべきか、看護職はどのような役割を果たすのかを理解する。さらに国民権の下に各社会保障のネットワークの機能について、効果とその評価を学習し、将来は看護がどのような役割を果たすべきかを学修し、課題とそれをどのように解決するのかという思考法も修得する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1 保健医療福祉の基本的な仕組みと各制度の関係と看護職の役割を理解し利用者に説明できる。 2 保健医療福祉の各資源を連携させ活用する思考を身に付け住民にネットワークの説明ができる。				
教科書	1. iPadに収録されているナーシンググラフィカの社会保障と社会福祉の巻 2. 適宜資料を配布する。				
参考図書	看護関係法令 系統看護学講座 2017年 医学書院				
評価方法	1. 毎回の出席時に提出するミニレポートの内容から受講態度・理解度を把握50% 2. 定期試験50%				
課題に対する フィードバック	1. 毎回のミニレポート等には次回に返却する。 2. 試験問題は持ち帰りし、模範解答は公開するので確認すること。				

科目コード【2207】

事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の該当箇所は必ず読んでから受講すること。</p> <p>事後学習：講義で学んだ内容をノートに整理し、自分の考えをまとめること。ミニレポートは毎授業終了後に提出することを課す。</p> <p>事後学習には30分以上の時間を充てること。</p>
----------------	---

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	保健医療福祉の概要	保健、医療、福祉のそれぞれの内容を把握し 関係を利用者の視点で理解	森山幹夫
2	地域社会の状況とその変化の流れを把握	少子高齢化の流れや男女共同参画社会の実現 といった社会の動きと看護の関係を把握	森山幹夫
3	地域における保健医療福祉の資源としての公共	保健指導や看護における国や地方自治体の役割 と行財政あるいは計画などについて理解	森山幹夫
4	保健医療福祉を推進するための各種法制度	地域保健法はじめ各種法制度とその沿革、理由、 国際的な動きとの関係を理解	森山幹夫
5	医療における資源とネットワーク化	病院や診療所、保健所などの地域の資源及び ネットワーク化する意義と方策	森山幹夫
6	介護における資源とネットワーク化	介護福祉施設や訪問看護などの地域の介護資源 及びそれらをネットワーク化する意義と方策	森山幹夫
7	保健医療福祉のネットワーク化のための仕組み	保健医療福祉資源と地域、職域、学校などの ネットワーク化とそれを支える行政の役割	森山幹夫
8	保健医療福祉ネットワークの重要性のまとめ	看護師や保健師として地域の資源を活用して 住民の保健福祉の向上のための基本認識	森山幹夫
—	定期試験		

科目コード【3206】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護対象論Ⅱ (疾病の回復過程)	専門科目	2単位 (15時間)	必修	2年後期	講義
	看護の基礎				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 平井和恵 [担当教員] 小林信、永島美香、田所良之		平井和恵（第一看護学科棟406研究室k-hirai@tokyo-med.ac.jp） 小林信（第一看護学科棟506研究室nkoba027@tokyo-med.ac.jp） 永島美香（第一看護学科棟402研究室m-naga@tokyo-med.ac.jp） 田所良之（第一看護学科棟505研究室taddy.via.tokyomed.ac.jp@gmail.com）			
授業のねらい	疾病の回復過程に特徴的な健康・生活上の課題及び支援を行う上で必要な概念・理論等について学ぶ。また、各発達段階にある看護の対象に特徴的な健康問題の理解、健康問題が生活に及ぼす影響について学ぶ。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (口にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 疾病の回復過程を説明できる。 2. 疾病の回復過程に特徴的な健康・生活上の課題について説明できる。 3. 疾病の回復過程の各段階および発達段階に応じた援助の特徴を説明できる。 4. 疾病の回復過程の各段階および発達段階に応じた援助を展開するうえで必要な基礎的な知識を説明できる。				
教科書	デジタルナーシンググラフィカ（メディカ出版） 成人看護学 1. 2. 3. 4. 5. 6. 小児看護学 1. 老年看護学 1. 2. 精神看護学 1.				
参考図書	生涯人間発達学 改訂第2増補版（上田礼子著）、三輪書店（看護対象論Ⅰで使用）				
評価方法	筆記試験（60%）、課題への取り組み（40%）				

課題に対する フィードバック	授業内でフィードバックする。
事前・事後学習	事前学習・事後学習：各担当教員より、その都度指示する。

授業 回数	項 目	講義内容	担当者
1	精神的な健康の回復過程に必要な視点①-1	オリエンテーション 精神力動論：心の構造と機能	小林 信
2	精神的な健康の回復過程に必要な視点①-2	精神力動論：欲求と防衛機制	小林 信
3	精神的な健康の回復過程に必要な視点②	ストレス・コーピング	小林 信
4	精神的な健康の回復過程に必要な視点③	危機理論、悲嘆	小林 信
5	疾病の回復過程に必要な視点①	疾病の回復過程と各期の特徴 QOL	平井 和恵
6	疾病の回復過程に必要な視点②	病みの軌跡、セルフマネジメント、 自己効力感	平井 和恵
7	疾病の回復過程に必要な視点③	リハビリテーション、 自己概念、ボディイメージ	平井 和恵
8	疾病の回復過程に必要な視点④	緩和ケア、全人的苦痛、死の受容過程	平井 和恵
9	疾病の回復過程に必要な視点⑤	がんサバイバーシップ	平井 和恵
10	高齢者の疾病の回復過程と健康 問題および援助の特徴①	高齢者の疾病の回復過程	田所 良之
11	高齢者の疾病の回復過程と健康 問題および援助の特徴②	高齢者の生活・健康上の問題と援助の特徴	田所 良之
12	高齢者の疾病の回復過程と健康 問題および援助の特徴③	高齢者への援助の展開における課題	田所 良之
13	子どもの疾病の回復過程	健康障害をもつ子どもと家族の特徴 課題「健康障害をもつ子どもをイメージする」	永島 美香
14	子どもと家族の成長発達段階に 応じた疾病の回復過程の特徴 ①	課題「急性期にある乳幼児期の子どもと家族 の特徴：川崎病を発症した子ども」 乳幼児期の子どもの健康問題の特徴と症状、 緊急性の判断、分離不安、母子関係	永島 美香
15	子どもと家族の成長発達段階に	課題「回復期から慢性期にある学童期の子ども	永島 美香

科目コード【3206】

	<p>応じた疾病の回復過程の特徴 ②</p>	<p>もと家族の特徴：白血病の治療を受けている子ども」 健康障害による子どもへの肯定的影響と否定的影響、家族への影響、入院・退院が及ぼす影響、発達課題、生活制限、ノーマライゼーションの促進</p>	
<p>—</p>	<p>定期試験</p>		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護援助論Ⅱ (看護過程の展開)	専門科目	1単位 (15時間)	必修	2年後期	講義
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]伊藤綾子 [担当教員]阿部幸恵		授業後または随時、事前のアポイントによる 伊藤 ayaito@tokyo-med.ac.jp 阿部 y-abe@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	対象の健康上の問題や日常生活におけるニーズを明らかにし、適切な援助を提供する方法論である看護過程を理解し、具体的な問題解決のプロセスを学習する。看護の専門的知識や経験に基づき、計画的に看護を実施・評価するための思考過程の一連を理解し、活用できるようにする。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 看護実践における、看護過程による問題解決の意義を説明できる。 2. 事例の対象に対する、情報収集を行い、関連図を作成してみることで、必要な情報の整理、アセスメントを行い、対象の全体像を把握した上で個別的な看護問題を考えることができる。 3. 事例の対象の看護問題に対する個別的な看護目標を立て、目標を達成するための看護計画の立案ができる。 4. 看護計画の実践と、その評価の必要性について理解することができる。				
教科書	古橋洋子、はじめて学ぶ看護過程、医学書院、2016 ナーシンググラフィカ 基礎看護技術、メディカ出版、2016 ナーシンググラフィカ 看護学概論、メディカ出版、2016				
参考図書	基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版 2012年 医学書院				
評価方法	定期試験 50%、確認テスト 20%、事前・事後課題 30%				

課題に対する フィードバック	授業中に個人または集団に対してフィードバックを行う。
事前・事後学習	<p>事前・事後課題を提示するので、学習の上、授業に臨んでください。特に事後課題については、次の授業時間に共有しながら授業を進めます。</p> <p>予習・復習には、上記のテキストや参考図書に限らず、関連する図書・資料を広く活用するようにしてください。2年前期までに学んだ知識・技術を活用できるよう復習をして授業に臨んでください。</p>

授業 回数	項 目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション 看護過程と問題解決の意義	看護過程を看護実践に用いる意義と問題解決の考え方を理解する。	伊藤綾子
2	情報収集と情報の整理 関連図の描き方	対象の情報収集の方法と、アセスメントに必要な情報にするための情報の整理の方法と、関連図の描き方について理解する。	伊藤綾子
3	情報の整理とアセスメント 関連図との関連	対象の情報を整理し、アセスメントの結果、今後起こりうる問題について考え、関連図に反映させることについて学習する。	伊藤綾子
4	関連図と看護問題の抽出・看護問題の表現方法 問題の優先順位の考え方	関連図から看護問題となりうることを考え、看護問題の原因・誘因から看護問題を抽出し、複数の問題についてその優先順位の考え方について理解する。	伊藤綾子
5	看護計画立案と目標設定	看護問題から、目標設定を行い、目標を達成するための看護計画を立案する方法について理解する。	伊藤綾子
6	看護計画立案と目標設定	看護計画の OTE について理解し、それらの関連について学習する。	伊藤綾子
7	看護実践と評価、看護計画の修正	看護計画に基づいた実践について記録し、評価する。実施した看護計画の修正を行う方法について理解する。	伊藤綾子
8	看護過程と看護理論・看護診断との関連	看護理論・看護診断と看護過程とのかかわりについて理解する。看護理論・看護診断を看護過程に用いる意義について理解する。	阿部幸恵
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護援助論Ⅲ (EBN)	専門科目	1単位	必修	2年次 後期	講義 演習
	看護援助の方法	(15時間)			
科目担当者		オフィスアワー・場所			
科目責任者：瀬戸山陽子 科目担当者：		随時可能です。事前にメールでご連絡をお願いします。 setoyama@tokyo-med.ac.jp 研究室：第2看護学科棟 304			
授業のねらい	科学的根拠に基づいた看護実践である Evidence Based Nursing の考え方を知り、一連のプロセスについて学ぶ。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1) 看護実践におけるケアの効果について、疑問を見出し、表現することができる。 2) 効率的・効果的に先行研究を検索し、入手することができる。 3) 入手した文献の質について、評価することができる。 4) 複数の先行研究を統合する文献レビューについて、概要やその構成を理解することができる。 5) 先行研究を統合した結果を対象に適用する際に、患者の個別性を考えられる。 6) EBNの一連のプロセスとその必要性について理解できる。				
教科書	特になし。 毎回資料を準備します。 授業には必ず iPad を持参してください。				

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 阿部俊子「看護のための EBN」中央法規、2001 ◆ 高木廣文、林邦彦著「エビデンスのための看護研究の読み方・進め方」中山書店、2006 ◆ 別府宏暁「考える看護の基本 『EBN 思考を身につける』」中山書店、2006 ◆ 佐藤淑子他著「看護師のための Web 検索・文献検索入門」医学書院、2013 ◆ 大木秀一著「看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん」、医歯薬出版、2015
評価方法	授業参加態度（16%）、小テスト（21%）、グループ活動参加態度（15%）、個人課題（8%）、定期試験（40%）
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストに関しては、授業内でフィードバックを行います。 ・ 個人課題に関しては、e 自主自学上もしくは、紙面にてフィードバックを行います。
事前・事後学習	1 年生の「看護リテラシー I・II」で学習した文献データベースの使い方や、文献入手方法、引用文献の記載方法を復習しておくこと。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 問題の定式化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方、出席、小テスト、課題についてのオリエンテーション ・ 看護ケアの効果における疑問 	瀬戸山 陽子
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集・文献検索 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集のための情報源 ・ 質の高い情報を入手するために ・ 文献入手の方法 ・ 入手した文献の整理 ・ 書誌情報 ・ 文献の種類と質の高さ 	瀬戸山 陽子
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献検索の実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問に沿った文献検索 ・ 文献一覧表の作成 ・ 文献の入手 	瀬戸山 陽子
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献の吟味 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献の読解 ・ 文献の要約作成 	瀬戸山 陽子
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究の統合 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の研究から、現場におけるケアを考えるプロセス ・ 複数の文献の統合 	瀬戸山 陽子

科目コード【3303】

6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献レビュー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献レビューの実際 ・ 文献レビューを読み解く 	瀬戸山 陽子
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者への適用 ・ 評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エビデンスがある場合の考え方 ・ エビデンスとナラティブのバランス ・ エビデンスが確立されていない場合の考え方 ・ 評価の視点 	瀬戸山 陽子
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ EBNのプロセス ・ システマティックレビュー／メタアナリシスについて ・ ガイドラインや推奨度について 	瀬戸山 陽子

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
健康教育論	専門科目	1単位 (30時間)	必修	2年後期	演習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]吉岡京子 [担当教員]吉岡京子、成瀬和子（協力者）		オフィスアワーは毎回講義終了後、411 研究室にて質問を受け付ける。 メールでも随時受け付ける（kyoko@tokyo-med.ac.jp）。			
授業のねらい	保健行動、保健行動の変容、健康教育に関する理論を学び、個人や集団の健康問題に立脚した健康教育の実際について学習する。特に、比較的健康レベルの高い人々を対象とした健康教育のアセスメント・企画・準備・実施・評価までの一連の健康教育を展開する過程における基本的技術を習得する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 保健行動、保健行動の変容、健康教育に関する知識を習得し、各理論について説明できる。 2. 健康教育の目的、対象、方法、対象の保健行動を支援するための思考プロセスを習得する。 3. 個人や集団を対象の持つ健康課題を解決するための健康教育の展開方法について理解できる。 4. 個人や集団の持つ特性を踏まえ、その関心を引くような健康教育を展開する技術をグループワークを通して習得する。				
教科書	毎回資料を配布する。				
参考図書	最新保健学講座〈別巻1〉健康教育論、宮坂忠夫・川田智恵子・吉田亨編著、メヂカルフレンド社				
評価方法	定期試験（40%）、受講態度（10%）、グループワークでの課題（40%）、ピア評価（10%）により総合的に評価する。				

課題に対する フィードバック	学生はワークシートの提出を行う。それに対し教員が適宜コメントをする。
事前・事後学習	事前学習：講義資料は、前週にe-自主自学に掲載する。事前に配布資料を読み、不明点を明らかにしておくこと。 事後学習：講義で学んだ内容をノートに整理し、自分の考えをまとめておく。 事前・事後学習には0.5時間以上の時間を充てること。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション・保健行動とその影響要因、健康教育の目的	対象の保健行動に影響する要因と健康教育の目的について理解する。	吉岡
2	健康教育の対象と実施プロセス、関連する理論①	健康教育を行う際の対象、種類と特徴(個別・集団健康教育)実施プロセスについて具体的な方法論について学ぶ。 健康教育を展開する際に必要な理論について学ぶ。例)変化理論、変化のステージモデル等	吉岡
3	健康教育に関する理論②	健康教育を展開する際に必要な理論について学ぶ。例)プリシード・プロシードモデル、自己効力感、健康生成論(SOC)、アンドラゴジー等	吉岡
4-6	ライフサイクルを考慮した健康教育の実際:対象の理解・アセスメント	身近なテーマ・対象別の健康教育の方法について、グループごとに課題をアセスメントする。	吉岡・成瀬
7-8	ライフサイクルを考慮した健康教育の実際:企画	健康教育をどのように行うのか、具体的な方法をグループで検討する。	吉岡・成瀬
9-10	ライフサイクルを考慮した健康教育の実際:シナリオの作成	健康教育を行う際のシナリオを作成し、グループで練習する。	吉岡・成瀬
11-12	ライフサイクルを考慮した健康教育の実際:デモンストレーション	グループごとにデモンストレーションを行い、洗練させる	吉岡・成瀬
13-15	健康教育の実際:発表会	グループごとに健康教育を実施し、その内容をお互いに評価する。	吉岡・成瀬
—	定期試験		

科目コード【3307】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
家族看護論	専門科目	1単位 (15時間)	選択	2年次 後期	講義
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
春日広美		春日広美 hkasuga@tokyo-med.ac.jp 第1看護学科棟5階502研究室			
授業概要	健康問題をかかえる家族の多様なありようを理解し、看護の対象として家族を捉えることを学習する。家族機能を踏まえた家族アセスメントの方法を理解し、家族支援の方法を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題が家族に及ぼす影響を多面的に理解できる 2. 家族看護モデルを概観し、家族アセスメントを理解できる 3. 家族に対する看護ケアを具体的に考えることができる 				
教科書	家族看護学 理論と実践 第4版 鈴木和子・渡辺裕子 2012 日本看護協会出版会				
参考図書	変わる家族と介護 春日キスヨ 2010 講談社現代新書 病の苦悩を和らげる家族システム看護 Lorraine M. Wright 他 小林奈美監訳 2011 日本看護協会出版会 癒しのための家族看護モデル 病いと苦悩, スピリチュアリティ Lorraine M. Wright 森山美知子監訳 2005 医学書院 家族生活力量モデル アセスメントスケールの活用法 家族ケア研究会 2008 医学書院				
評価方法	試験 70% レポートおよびグループワークの状況 30%				
事前・事後学習	事前学習：授業はあらかじめe自主自学内に提示してあるので、該当資料を読んでおくこと。グループワークでは、授業時間中にメンバーと検討できるまでに個人の学習をすすめてから授業にのぞむこと。 事後学習：講義で学んだ内容は教科書や配布資料で復習し、その都度理解しておくこと				

科目コード【3307】

回数	項目	講義内容	担当者
1	家族看護概論 1	1. オリエンテーション 2. 家族の概念と家族機能 3. 現代社会における家族（特徴・問題） 4. 家族看護の役割 5. 家族を理解するための諸理論	春日広美
2	家族看護概論 2	1. 看護の対象としての家族 1) 発達段階で捉える家族 2) 疾患特性および病期で捉える家族	春日広美
3	家族看護概論 3	家族看護の実際 演習：在宅介護者体験	春日広美
4	家族アセスメント 1	1. 家族アセスメントモデル 2. 事例の紹介	春日広美
5	家族アセスメント 2	○家族アセスメントの方法 1（事例展開） ・情報収集および必要な情報の確認、家族アセスメントモデルを用いた家族像の形成	春日広美
6	家族アセスメント 3 (グループワーク)	○家族アセスメントの方法 2（事例展開） ・家族ケア計画の作成	春日広美
7	家族アセスメント 4 (グループワーク)	○家族アセスメントの方法 3（事例展開） ・家族ケア計画の完成 ・発表の準備	春日広美
8	家族アセスメント 5 (グループワーク発表) まとめ	1. グループワークの成果発表と講評 2. 学習の振り返りと臨床での活用	春日広美
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護基礎実習	専門科目	2単位 (45時間)	必修	2年後期	実習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]天野雅美 [担当教員]阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他13名		天野研究室 409 masami@tokyo-med.ac.jp 実習時間終了後・教員研究室および実習場所			
授業のねらい	「健康生活支援論演習」、「フィジカルアセスメント」、「看護援助論Ⅱ(看護過程)」などで学んだ内容を元にして、医療機関で療養生活を送っている患者の日常生活を支援するために、受け持ち患者を通して、患者との人間関係を築き、患者の発達段階、生活習慣、健康レベルなどの背景を考慮し、患者の個別性に応じた援助方法についてアセスメントから看護計画を立案し、実施・評価を行う一連の過程を実践する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 患者の健康レベルに合わせた日常生活へ向けた看護を実践するための思考過程を踏むことができる。 2. 患者の個別性に応じた看護援助を実施し、評価することができる。 3. 患者とのよりよい人間関係を成立・発展させるための基本的能力を習得することができる。 4. 看護者としての責任を自覚し、専門職業人として望ましいあり方を考えることができる。 5. 看護実践を通して、看護の目的・役割・機能について考えを深めることができる。				
教科書	看護学概論・健康生活支援論・健康生活支援論演習・フィジカルアセスメント・看護対象論Ⅰで使用するテキスト				

科目コード【3313】

<p>参考図書</p>	<p>看護学概論・健康生活支援論・健康生活支援論演習・フィジカルアセスメント・看護対象論Ⅰで使用する参考図書 その他、必要時に指示する。</p>
<p>評価方法</p>	<p>実習時間の5分の4以上の出席を以って、単位認定の評価の対象とする。 到達目標と評価の視点に則って、評価を行う。 (1) 記録 40% (2) 実践 60% 評価はS、A、B、C、Dの5段階で行い、S、A、B、Cを合格とする。</p>
<p>課題に対する フィードバック</p>	<p>実習中やカンファレンス、実習終了後に集団または個別にフィードバックをする。実習最終日には、担当教員による個別面接を実施する。</p>
<p>事前・事後学習</p>	<p>事前学習：日常生活行動の援助技術、バイタルサイン測定・フィジカルアセスメント技術、看護過程、コミュニケーションについて調べてまとめる。 実習中の学習：受け持ち患者に関する発達段階や課題、疾患に関する解剖生理学、病態生理学、治療、検査、看護について調べる。</p>

科目コード【3313】

実習 日数	項 目	講義内容	担当者
1	実習オリエンテーション（学 内）	実習目標の確認や実習方法など 事前課題の確認 グループ毎のオリエンテーション	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13名
2	臨地実習	病棟オリエンテーション 患者決定 情報収集や整理 カンファレンス	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13名
3	臨地実習	援助の一部実施 情報の整理やアセスメント カンファレンス	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13名
4	臨地実習	援助の一部実施 情報の分析と援助の方向性 カンファレンス	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13名
5	臨地実習	援助の一部実施 看護計画の立案 カンファレンス	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13名
6	臨地実習	立案した看護計画に沿った援助の実施 カンファレンス	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13名
7	臨地実習	立案した看護計画に則った実施と評価 看護援助の評価と修正 カンファレンス	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13名
8	臨地実習	修正した看護計画の実施 カンファレンス	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13名
9	臨地実習	修正した看護計画の実施の評価 最終カンファレンス	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13名

科目コード【3313】

10	実習のまとめ (学内)	実習目標に対する到達度の確認など 学内カンファレンス 自己評価・個人面接 実習記録やレポートの整理	天野雅美 阿部幸恵 伊藤綾子 小野田舞 清水典子 西村礼子 他 13 名
----	----------------	--	---

*実習要項参照

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
地域看護学概論	専門科目	2単位 (15時間)	自由	2年後期	講義
	コミュニティヘルスケア				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 鈴木 良美 [担当教員] 鈴木 良美		講義終了後・研究室			
授業のねらい	公衆衛生看護学における主要な理念、概念、変遷、および対象別にみた公衆衛生看護の動向と活動について概説する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 公衆衛生看護学の基本的な理念を理解できる。 2. 地域で生活する個人・家族・特定集団・コミュニティについて、対象者の特徴と支援の基本的な考え方を理解できる。 3. 公衆衛生看護活動の場における保健師の役割と活動内容を理解できる。 4. 母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、障害者（児）保健活動、難病保健活動、感染症保健活動、地域包括ケア、健康危機管理について積極的に事前学習し、講義や事後学習を通して学びを深める。				
教科書	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 最新版、標 美奈子、医学書院 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 最新版、中谷 芳美、医学書院 公衆衛生がみえる 最新版、医療情報科学研究所、メディックメディア				
参考図書	公衆衛生マニュアル 最新版、柳川 洋、中村 好一、南山堂				
評価方法	定期試験（70%）、受講態度（10%）、課題（20%）により総合的に評価する。 開始時間 30 分以上遅れて到着した場合、終了時間 30 分以上前に席を離れて戻ら				

科目コード【3701】

	<p>ない場合は欠席と見なす。</p> <p>上記以外の遅刻・早退は2回で欠席1回と見なす。</p> <p>再試験は実施しません。</p>
課題に対する フィードバック	<p>課題の結果を学生に返却する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：その回で学ぶ事項についてテキストを読み、不明点について調べる。</p> <p>事後学習：講義で学んだ内容をノートに整理し、学んだことをまとめる。</p> <p>事前には1.5時間・事後学習には0.5時間以上の時間を充てること。</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション 地域看護・公衆衛生看護学とは	地域看護とは、公衆衛生看護学とは 必要な基本的理念、概念、モデル	鈴木 良美
2	公衆衛生看護活動の変遷	日本における公衆衛生看護活動の変遷 諸外国における公衆衛生看護活動の変遷	鈴木 良美
3	公衆衛生看護の対象と場	多様な公衆衛生看護活動の対象と場	鈴木 良美
4	母子保健活動①	母子保健の動向、母子保健活動	鈴木 良美
5	母子保健活動②	乳幼児期の成長・発達と健康診査・保健指導	鈴木 良美
6	母子保健活動③	健康上のリスクを持つ親子への保健活動	鈴木 良美
7	成人保健活動	成人保健の動向、成人保健活動	鈴木 良美
8	高齢者保健活動	高齢者保健の動向、高齢者保健活動	鈴木 良美
9	精神保健福祉活動①	精神保健福祉の動向、精神保健福祉活動	鈴木 良美
10	精神保健福祉活動②	事例を用いた精神保健師福祉活動の実際	鈴木 良美
11	障害者・難病・歯科保健活動	障害者・障害児保健の動向と活動 難病保健の動向と活動 歯科保健の動向と活動	鈴木 良美
12	感染症保健活動	感染症保健の動向、感染症保健活動	鈴木 良美
13	地域包括ケア	地域包括ケアの動向、地域包括支援センター	鈴木 良美
14	健康危機管理	健康危機管理対策、災害発生時の保健活動	鈴木 良美
15	保健師活動の実際	地域における保健師活動の実際	鈴木 良美
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
学校保健論	専門科目	1単位 (15時間)	選択	2年後期	講義
	コミュニティ ヘルスケア				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 鈴木 良美 [担当教員] 鈴木 良美		講義終了後・研究室			
授業のねらい	学校保健の定義、関連法規について教授する。さらに、学校保健の場における看護職の役割、活動について考え、子どもたちの健やかな発達と健康な生活をサポートする方法を学習する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 学校保健の定義と歴史、目的、関連法規について理解できる。 2. 学校保健の場における養護教諭の役割、活動を理解できる。 3. 学校保健における健康課題を理解できる。				
教科書	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第3版、松田正巳、医学書院 公衆衛生がみえる 最新版、メディックメディア				
参考図書	学校保健マニュアル 改訂8版 南山堂 学校における養護活動の展開 改訂2版 ふくろう出版 養護教諭のための学校保健 第13版 少年写真新聞社 小児科 園医・校医・小児科医のための学校保健ガイド 金原出版 養護教諭の「現場力」 明治図書				
評価方法	定期試験(70%)、受講態度(10%)、課題(20%) 定期試験(70%)により総合的に評価する。 遅刻・早退2回で、欠席1回と見なす。				

科目コード【3702】

	再試験は実施しません。
課題に対する フィードバック	課題を学生に返却する。
事前・事後学習	事前学習：その回で学ぶ事項についてテキストを読み、不明点について調べる。 事後学習：講義で学んだ内容をノートに整理し、学んだことをまとめる。 事前・事後学習にはそれぞれ1時間以上の時間を充てること。

授業 回数	項 目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション 学校保健とは	学校保健の定義、歴史、関連法規	鈴木 良美
2	学校保健と学校安全	学校保健計画、学校安全計画、危機管理、 環境衛生	鈴木 良美
3	養護教諭の活動①	養護教諭の職務、役割、保健室の機能	鈴木 良美
4	養護教諭の活動②	健康診断、感染症予防	鈴木 良美
5	養護教諭の活動③	健康相談、健康教育	鈴木 良美
6	養護教諭の活動④	養護教諭の活動の実際	鈴木 良美
7	学校保健における健康課題①	学校保健の現状と動向、疾患管理（慢性疾患、 アレルギー疾患）	鈴木 良美
8	学校保健における健康課題②	学校精神保健（児童虐待、いじめ、不登校、 自殺）、思春期の健康課題とその支援	鈴木 良美
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
産業保健論	専門科目	1単位 (15時間)	選択	2年後期	講義
	コミュニティ ヘルスケア				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]鈴木 良美 [担当教員] 鈴木 良美		講義終了後・研究室			
授業のねらい	産業保健の場における看護職の役割と活動、さらに産業の場で働く労働者の健康に関する様々な問題、すなわち職業に起因する健康障害の予防、健康と労働の調和、健康及び労働能力の保持増進について概説する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 産業保健の目的、活動について理解できる。 2. 産業保健の場における看護職の活動を理解できる。 3. 産業保健における健康課題について、積極的なグループでの調査・まとめ・発表・討議を通して学びを深める。				
教科書	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第3版、松田正巳、医学書院 公衆衛生がみえる 最新版、メディックメディア				
参考図書	労働衛生のしおり 最新版 写真で見る職場巡視のポイント 改訂 (産業保健ハンドブック) 産業保健マニュアル 最新版 南山堂				
評価方法	定期試験 (70%)、受講態度 (10%)、課題 (20%) により総合的に評価する。 遅刻・早退2回で、欠席1回と見なす。 再試験は実施しません。				
課題に対する フィードバック	課題を学生に返却する。				

科目コード【3703】

事前・事後学習	<p>事前学習:その回で学ぶ事項についてテキスト等を読み、不明点について調べる。</p> <p>事後学習:講義で学んだ内容をノートに整理し、学んだことをまとめる。</p> <p>事前・事後学習にはそれぞれ1時間以上の時間を充てること。</p>
----------------	---

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション 産業保健、産業看護とは	産業保健、産業看護の理念と目的 産業保健の制度とシステム	鈴木 良美
2	産業保健の場における看護職の活動①	健康管理〔健康の保持増進〕	鈴木 良美
3	産業保健の場における看護職の活動②	産業看護活動の展開方法	鈴木 良美
4	産業保健の場における看護職の活動③	作業管理、作業環境管理〔職場巡視〕	鈴木 良美
5	産業保健における健康課題①	VDT作業、職業性腰痛、熱中症、騒音	鈴木 良美
6	産業保健における健康課題②	化学物質〔有機溶剤、特定化学物質〕、石綿、粉じん	鈴木 良美
7	産業保健における健康課題③	酸欠、高気圧、電離放射線、振動	鈴木 良美
8	産業保健における健康課題④	メンタルヘルス、過重労働対策	鈴木 良美
—	定期試験		